

長薬同窓会報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences

Nagasaki University

第 45 号 (2005年)

目 次

同窓会長挨拶	西脇金一郎 (昭33)	1
薬学部長挨拶	松村 功啓	2
支部だより		4
関東支部, 近畿支部, 四国支部, 山陰支部, 広島支部, 山口支部, 熊本支部, 鹿児島支部, 長崎支部ぐびろ会		
平成18年度総会案内 北九州支部		13
クラス会および近況だより		14
谷口順一 (昭10), 松尾康夫 (昭12), 牟田邦彦 (昭17), 乃万 正 (昭19), 中倉敬昭 (昭26), 永田久利 (昭28), 服部俊明 (昭28), 森田 勉 (昭30), 村上 元 (昭31), 深山英伍 (昭32), 三浦博史 (昭33), 松尾幸子 (昭34), 白土宮人 (昭34), 井上明子 (昭35), 有吉美恵子 (昭36), 廣島須美子 (昭36), 池田修一 (昭37), 山縣佳子 (昭40), 早崎義信 (昭41), 富永義則 (昭44), 松本逸郎 (昭47), 山田有一 (昭47), 立花剛一 (昭49), 緒方信明 (昭50), 藤山恵津子 (昭55), 高良真也 (昭57), 伊藤 潔 (昭59), 山本 稔 (平2), 鶴屋伸一郎 (平3), 今村朋史 (平11), 濱野 環 (平12), 友成正英 (平12), 小西宏規 (平14), 菅原隆文 (学部4年), 山澤龍治 (学部4年)		
クラブOB会だより		56
野球部, 硬式テニス部, 軟式庭球部		
庶務報告		61
物故者氏名		61
学内記事		62
長薬同窓会役員名簿		64
長薬同窓会支部一覧		65
会計報告 (平成16年度決算, 平成17年度予算)		66
同窓会事務局だより		表III
編集後記		表III

同窓会長挨拶

会長 西脇 金一郎 (昭33)

平成17年度定期総会は6月11日(土)午後5時よりホテルセントヒル長崎にて開催されましたが、今年も関東支部樋口幹事長、近畿支部白石支部長、北九州支部末宗支部長、福岡支部青木支部長など各支部の代表、又、山口支部、山陰支部など全国各地から総勢73名のご参集を頂き盛会裏に終えることが出来ました。次期総会は北九州支部にて平成18年6月10日(土)に開催が決定しました。多数のご参加をお待ち申し上げます。

長薬同窓会の3月末現在の会員総数は4,335名(内、正会員3,945名)です。今後の会員動向を見ますと各支部とも平成卒の若手がどんどん増加して来ています。彼らのそして女性の参加を如何に促すかが支部活性化のキーポイントであることは言うまでもありませんが、時代の波の中で各支部の活動も薬学部6年制への変革を前にして、過去からの脱皮と新しい同窓会のあり方を模索せざるを得ない節目に來たと強く感じる昨今です。

昨年度の長薬同窓会関連の動きとしましては、平成16年10月23日、薬学部全面改修完成記念式典及び祝賀会が開催されました。昨年11月には事務局員・大河内美代子氏が体調不良でご入院、本年4月16日付にて正式に退職され、後任に武次郁子氏を承認いたしました。又、本年4月1日付にて学部長が中島憲一郎教授から松村功啓教授へ交替されました。

17年度事業につきまして、支部組織の再構築では現在、支部会員165名を擁する佐賀支部がここ数年スリーピング状態であり、支部の立て直しに本部より佐賀支部幹事の方へ協力要請をお願いいたしました。又、同窓会関連施設の維持・管理としてぐびろが丘防空壕慰霊碑清掃(8月7日)を行い、小野島校舍跡記念碑周辺清掃を11月27日(日)に本部役員にて行いました。懸案の同窓会員名簿CD化については、昨今の個人情報保護法の絡みもあり見直しが必要です。長崎大学全学同窓会の動きでは10月8日(土)全学同窓会幹事会にて役員選

出が行われ、第一期の全学同窓会会長に医学同窓会の井石哲哉氏、副会長に瓊林会(経済学部)福地茂雄氏、会計監事に玉園同窓会(教育学部)の宮地計氏が選出されました。尚、会員としては各学部同窓会単位となり、個人会員はありません。

誠に残念なことでありますが、2000年8月以来、長薬同窓会としてのネットワーク拡大のため、今日まで同窓会情報として長薬eグループの皆様方に5年間で情報140件を提供してきましたが、最近の迷惑メールの中に「長薬eグループオーナーアドレス」又は「小生の個人アドレス」を騙りウイルス感染メールが長薬eグループ管理者発信とはまったく無関係な皆様方に配信されていました。小生としてはウイルス防御には細心の注意を払ってきましたが、皆様方にご迷惑をかけたことは事実です。これ以上皆様にご迷惑をかけないため5年間継続してきました「長薬eグループ」を10月7日を以って閉鎖いたしました。本当に長い間、お付き合い頂きありがとうございました。また、その間、激励、感想、質問等をお寄せいただいたり、閉鎖に当っては皆様より暖かい感謝のお気持ちを戴き、やってよかったと心から嬉しく思いました。

尚、今後は長薬同窓会ホームページ(*)にて近況の連絡をさせていただきますので、そちらをご利用ください。

最後になりますが、私こと、平成18年3月末日をもって、会則にのっとり3期6年間の会長職を辞させていただきます。無位無冠の小生に今日まで暖かいご支援ご協力をいただき誠にありがとうございました。楽しかった思い出を心から感謝し、御礼申し上げます。長薬同窓会会員各位の今後益々のご発展ご健勝を祈念しご挨拶とさせていただきます。

(*)長薬同窓会ホームページ:

<http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/dousou/dousoul.shtml>



長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 まつ 松 むら 村 よし 功 ひろ 啓

長薬同窓会の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

本年4月に学部長の職を拝命いたしました。この半年間に様々な重要な課題に直面しこの職責の重さをひしひしと感じておりますが、歴史ある本学部がより発展するよう微力ながら努力いたす所存でありますので、よろしく願い申し上げます。

さて、本学部は、現在、大きな二つの重要課題を抱えております。第1の課題は、薬学6年制の件であります。御承知のことと存じますが、平成18年度から薬学6年制の実施が決定し、全国の国立大学のすべてが6年制及び4年制を併置する2学科制をとります。それぞれの6年制と4年制の定員比率は8人：72人（東大）、20人：60人（東北大）、30人：50人（京大、北大、九大）など大学によって異なっており、本学部は薬学科（定員40人）と薬科学科（定員40人）を持つことになりました。本学部のこの比率は、薬剤師養成と研究者養成を等しく行うというこれまでの本学部の基本方針、高校生の意識調査、製薬企業へのアンケート調査等の結果に基づいて決定しました。結果として、これまでの全国の薬学系大学の定員合計総数1,480人（4年制のみ）から6年制706人、4年制774人という定員になります。一方、私立大学においては6年制のみの私立大学と2学科制の私立大学が混在しております。この薬学6年制の制度目標に向けて順調に進むための準備をすることが、現在の最重要課題です。

何故ならば、6年制に相応しい新しいカリキュラムとして5年次に6ヶ月の長期実務実習が課されますが、薬剤師免許を持たない学生が患者と接する実習を行っていいのか否かの問題があります。この問題をクリアするために、共用試験と呼ばれる仮免許制度が考えられており、これは2種類の試験から成り立っています。即ち、知識を問う試

験（CBT—Computer Based Testing）と技能・態度を問う試験（OSCE—Objective Structured Clinical Examination）であり、CBTについてはそのシステムを構築しなければなりません。またOSCEについてはこれに合格するための事前実習施設である模擬薬局を設置する必要があります。特に予算面では新たに措置されるというわけではなく、本学の経営努力の中で解決していくこととなりますが、この問題を早急にきちんと処理して、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、コミュニケーション能力、問題解決能力等の実践力を持った高資質の薬剤師を養成するシステムを確立したいと思っております。

第2の課題は、学部6年制以外の薬学部の将来構想の件です。平成16年度からの国立大学法人化以来、大学を取り巻く環境は大きく変化しはじめており、外部資金の獲得、研究実績、大学院定員の充足等が個人評価、学部評価の基準となってきました。現在、薬学部の教員は薬学部所属ではなく医歯薬学総合研究科に所属しており、基本的には医歯薬学総合研究科長が責任者となっておりますが、実質的には医歯薬学総合研究科を構成している薬学部（薬学系）、医学部（医学系）、歯学部（歯学系）のそれぞれの学部が責任を問われます。

薬学部（薬学系）としては、研究・教育の国際化、創薬研究・教育センター構想の実現化、また、平成22年度には、6年制の上に新たな博士課程（専攻）の設置、4年制の上にある博士前期課程及び博士後期課程の改組を行うこととなります。

新教育制度移行後の平成18年度以降に学部4年制を存続させるのも、高資質の薬剤師養成だけでなく、研究者・技術者養成も薬学部（薬学系）の使命と考えているからであります。なお、この4年制については、6年制と併せて学内外のより一

層の御理解を得るべく、高校生、高校及び予備校の先生を対象として、薬学部教員による説明会を開催するとともに、九州一円の高校への訪問などを通じて、現在、広報活動に努めているところであります。

次いで、この4月以降の人事異動、組織変更について御報告いたします。

まず、第1課題の薬学6年制に関連して実務家教員4人（薬剤師として5年以上の実務経験のある者）の配置が法的に必要となります。薬学6年制を文部科学省に申請した今夏には、少なくとも2人の実務家教員を配置することが条件でありましたので、放射線生物学研究室を新しく病院薬学研究室として衣替えし、中嶋幹郎教授(昭57)、大脇裕一講師（平8）が本年8月1日付けで着任い

たしました。放射線生物学研究室は助教授だけの研究室として平成17年度まで存続しますが、それ以降は廃止されます。

その他の人事としては、本年10月1日付けで医歯薬学総合研究科附属薬用植物園の北村美江助手(昭50)が環境科学部教授として転任されました。このように毎年人事異動がありますが、大学の研究・教育の活性化にはこれは非常に望ましいことであり、今後も益々活発な人事異動があることを期待しております。

長薬同窓会の皆様には、このような大学の現状を御理解いただき、薬学部が今後さらに発展するよう、これまでと変わらず御支援・御高配を賜りますようお願い申し上げます。



支 部 だ よ り

関 東 支 部

幹事長 樋口 宗司 (昭42)

今年は衆議院解散総選挙、JR 福知山線の脱線事故、大地震や津波、ハリケーン等々、さまざまなニュースがメディアを駆け巡りましたが、そのような中であって私共薬学部出身者にとっては「薬学教育6年制」への移行問題が大きなニュースでありました。長薬同窓会関東支部では、6月4日(土)に開催した支部総会に先立ち、卒後シンポジウムでこの6年制移行問題を取り上げました。昨年に引き続き剛堂会館でシンポジウムを、支部総会と懇親会は都市センターホテルで開催しましたが、当日は来賓として本部から西脇会長、中島副会長にお越しいただき、近畿支部の林田 久氏(昭62)の参加も得て、同窓生44名を数える盛大な会になりました。卒後シンポジウムのプログラムは文末に付記しますが、来春の入学生から6年制に移行することが決まっても教育カリキュラム、とりわけ臨床実習への対応、4年制を卒業した現役薬剤師の補充教育問題等々、これから解決すべき問題が山積していることを痛切に感じました。

会場を移して開催した関東支部総会では、校歌斉唱、富安支部長・西脇会長のご挨拶に引き続き会計報告や事業計画等の報告、さらに新任幹事として多田和子氏(昭48)ならびに原 正朝氏(昭60)に就任挨拶を頂きました。懇親会は昭和17年卒の新竹定男大先輩から平成11年卒の藪口梨香氏まで、老若男女が親しく会場を行き交い、楽しい会話や笑い声が絶えませんでした。特に平成卒業の若手女性会員4名は懇親会の雰囲気をおおいに盛り上げてくれました。

もう一つ、関東支部の行事として10月2日(日)にアロマセラピー講習会と小石川植物園見学の会を開きました。当日は晴天に恵まれ、同窓会員31名に加え講師や植物園長、会員外の参加者を含め40名程で和やかな中にセミナーや昼食会、植物園の

散策を致しました(当日のプログラムも文末に付記します)。この企画は、同窓会に相応しい会を開きたいという幹事会の熱心な討議で実現しましたが、会の案内は予め登録して頂いたEメールやFAXを用いました。遠くは長崎から松尾幸子氏(昭34)のご参加もありましたが、同級生の口コミも多くの方に参加頂いた要因となっています。

長薬同窓会の盛り上げ、具体的には会費の納入を促し、総会への参加者を増やすことは本部にとっても支部にとっても喫緊の課題です。関東支部の会合では、会員相互の懇親に留まらずもっと同窓生を頼りにした活動もあっても良いのでは……という声がよく聞かれます。我国でもっとも伝統のある長薬同窓会ならば、子育てが一段落したあとの調剤現場への復帰、医薬の開発や学術、MR等の職場紹介など、より良い自己実現の場を会員に提供できるネットワークの構築が可能ではないでしょうか。幸い関東支部には保険薬局への職業紹介、模擬薬局を備えた調剤の研修施設、CRCやコントラクトMRの紹介など、受け皿になる組織に会員が数多くおられます。長薬同窓会の将来展望として、会員相互扶助のネットワーク構築も視野に入れておくことを支部便りの一環として提案したいと存じます。

(付記1)

長薬関東支部 第3回卒後セミナープログラム

「薬学教育6年制への移行と現役薬剤師」

—薬学教育6年制実現の経緯と現役薬剤師の抱える課題—

総合司会 谷 覺 (昭42)

開会の挨拶

長崎大学薬学部同窓会関東支部会長

富安 一夫 (昭34)

基調講演

「薬学教育6年制実施と薬剤師の将来展望」

座長：富士バイオメディックス

黒岩 幸雄先生 (昭30)

講師：明治薬科大学

特任客員教授 村田 正弘先生

アカデミーホール

シンポジウム

「薬剤師の抱える今日と明日の課題」

コーディネーター 末澤 克己 (昭47)
吉岡 優子 (昭56)

医療の立場から

日赤医療センター 多田 和子先生 (昭48)

臨床開発の立場から

総合SMO 原 正朝先生 (昭60)

薬学教育の立場から

長大薬学部 中島憲一郎教授 (昭46)

閉会の挨拶

長崎大学薬学部同窓会

関東支部副会長 渡邊三二四 (昭35)

(付記2)

アロマセラピー講習会

「アロマの講演とハーブを見る会」

日時；平成17年10月2日(日) 10：30—15：30

会場；レストラン「ボンジー」2階

会費；1,500円 (昼食代を含む)

〈プログラム〉

講演1 「調剤薬局における

アロマセラピーの取り組み」

座長 城西大学薬学部教授

谷 覺先生 (昭42)

講師 NPO「薬と健康を考える会」

塚本 麻美先生

講演2 「心を癒すアロマセラピー」

座長 日赤医療センター薬剤部

多田 和子先生 (昭48)

講師 チェリッシュ・インターナショナル

代表取締役 長谷川記子先生

12：30—13：30 昼食会&懇親会

13：30—15：30 小石川植物園におけるハーブ
や珍しい植物の鑑賞

☆小石川植物園園長の東京大学理学部教授 長
田敏行先生がご案内して下さいました。



近畿支部

支部長 白石 哲也 (昭32)

近畿支部は7月3日(日)、大阪弥生会館にて平成17年度特別講演及び支部総会・懇親会を開催しました。長薬同窓会長、西脇金一郎氏を迎え、支部

会員35名の出席を得て行うことが出来ました。

特別講演は永田修一氏(院55)にお願いして「薬剤師を取巻く状況について」のお話を頂きました。薬剤師にとって大変時機を得た内容で、「薬学部6年制への対応」、「薬局実務実習受け入れ」、「認定実務実習指導薬剤師」ほか、これからの薬剤師が果たすべき役割について最新の情報を聞く事ができました。これから薬剤師の役割は更に広く深く

なることを感じました。

平成6年、遠藤武男支部長の時に始まった近畿支部会報の発行は、今年12月で10号を迎えます。これまで会員、特別講演者、毎原政利氏(昭31)はじめ支部役員のご協力とご努力により、会報の発行が続いていることを喜んでます。

昨年、支部長を仰せつかって1年が立ちました。この間、支部役員と共に支部の活性化に取り組んでいるところです。これまでに次の二つのことを行いました。

一つは北陸3県の同窓生の方に近畿支部加入を呼び掛けましたところ、13名中1名、33年卒の高守清美様が加入されました。もう一つは特別講演並びに総会の曜日を皆様が出席しやすい様にと、例年の土曜日から日曜日に変更したことです。しかし、出席者は例年並みでした。

このところ総会の出席者が高齢化しており、“温故”の感じがありますが、その目ざすところは世代を越えて集い、その中から“知新”を汲み取る事にあると思います。もう少し総会時の内容や呼

び掛け方などに工夫し、多くの会員、若い人たちが参加できるようにしたいと考えております。

次に支部総会時の様子をお知らせ致します。
「特別講演」14時～ 司会 白石 哲也(昭32)
永田 修一氏(日本薬剤師会理事、
長崎県薬剤師会副会長)(院55)

「薬剤師を取巻く状況について」

「開会」15時30分～ 進行 梶野 繁(昭42)

1. 支部長挨拶 白石 哲也(昭32)
2. 物故会員への黙禱
3. 校歌斉唱
4. 長薬同窓会会長挨拶 西脇金一郎(昭33)

「支部総会」 議長 白石 哲也

1. 庶務・会計報告 遠藤 寛子(昭42)
会計監査報告 広本 淳子(昭44)
2. 会報No.10号の発行について

「懇親会」16時00分～ 進行 斉藤みどり(平8)
支部総会に引き続き懇親会に入り、楽しい話
らいのひとつきを過ごしました。



四国支部

支部長 井上 智喜(昭54)

四国支部同窓会が2年ぶりに、春先の平成17年4月9日(土)、8名の方々の参加を得て愛媛県松山市で開催されました。四国支部には約90名の会員

がおりますが、交通アクセス等の問題もあり、同窓会を愛媛、香川、徳島と順次開催してまいりましたが、昨年は残念ながら高知県での開催が出来ず、大変申し訳なくお詫び申し上げます。

さて今回参加の方々を紹介いたします。小西良士先生(帝国製薬)、毎回同窓会にご参加いただき、薬剤学教室で教鞭をおとりになっていた頃と同じくらいに若々しくいらっしゃいます。今後と

もご指導よろしくお願い致します。青野 眞氏(昭51), 学生時代(女性にもてもての栄光の時代?)の写真を持っておられ、同窓会も盛り上がりました。当時と変わらずとても朗らかでいらっしやいます。田村多津子氏(昭54), 相変わらず可愛くて、お茶目とていいたいところですが、しっかりと主婦と母親と少しだけ薬剤師をやっておられます。井上智喜(昭54), うーん。何とも言えません。元氣デース。今はやりのメタボリックシンドロームが心配です。林 雅子氏(昭55), ばりばりの現役薬剤師さんです。いまにもこぼれそうな素適な笑顔は健在です。中尾寿敏氏(昭57), 彼と一緒になんとか同窓会を盛り上げようと頑張っておりましたが、新潟に転勤されまして、とても残念です。この場を借りて、“いろいろと本当にありが

とうございました”。葛城文子氏(平6), お若いですが、明るく、礼儀正しく申し分のない後輩です。遠山知子氏(平16), 爽やかでとても物静か? 将来がとても期待できます。うらやましいですね、若いということは。学生時代が今にも蘇って来るようでした。

以上同窓会参加の方々の紹介を致しましたが、同窓会では長崎の今昔や懐かしい思い出を語りながら、また現在の皆様状況など縷々紹介しながら、とても楽しく時を過ごしました。四国支部の皆様にも是非この雰囲気味わっていただきたいと思ひます。今回は、香川県高松市での開催を予定しておりますので、少しでも多くの会員の方々の参加をお待ちしております。よろしくお願ひ申し上げます。

山陰支部

支部長 橋本 覚(昭52)

平成17年9月17日、出雲市平田町(合併により平田市が出雲市になりました。)の「温泉ゆらり」において支部同窓会を開催しました。

新人の参加が少なく、先細りするのではと危惧しておりましたが、今回初めて、小笹先生(平10)に出席いただき、ありがとうございました。初参加では、諸先輩方に気兼ねしてなかなか話題についていけなかったかもしれませんが、回を重ねると遠慮なんて無くなってしまいます。私も20年前の30代前半が初参加でしたが、2回目の参加から気兼ねなく話題についていけるようになりました。

参加者は10名と少なく、50代以降の世代は第2の人生について語り合うことが多くなりました。また、健康を気にする年代ですので先輩達についての話題で盛り上がります。療養中で参加出来ないとの返事がありますと、気になりだして一時は場が暗い雰囲気になることもありました。

そこは、特別に明るく陽気な一人の九州男児(今回、該当者3人。その人は?)が和ませてくれます。新婚の出席者、安食先生(平11)に集中砲火をあげせ、知り合った経緯、新婚旅行先、住まい

などを聞き出し幸せ気分のお裾分けをいただきました。

開始時間の2時間半前に到着され、温泉気分を満喫された間瀬田先生(昭47), 開始時間が変更になったことをHPでご覧になっていなかったのだそうです。郡山先生(昭61), 山田先生(昭50)と私も開始時間前に温泉気分を堪能した次第です。出張の帰りに駆けつけていただきました山田先生、ご主人の小言はありませんでしたか。病葉の研修会が松江で開催されることとなり、開始時間変更を申し出られた板倉先生がご夫婦(昭49・昭53)で早めに到着され、ビックリ。二日酔いで研修参加を見送ったそうで、支部同窓会には欠かさず出席されるとは流石です。県薬の理事(研修担当)なのに大丈夫ですか? この原稿は長崎大出身の薬剤師にしか目に触れないので大丈夫でしょう。(研修欠席が明らかになります。)

山本先生(昭39)が到着され、宴会がスタートします。研修会参加で遅れて来られた、安食先生、小笹先生が落ちつかれたところで、自己紹介、近況報告の挨拶が順に廻ります。すると、開始早々、横からいろいろな質問が飛び交い混乱気味。途中で横道に逸れて質問が一段落したら近況報告の続きを始めますが、またまた脇道に逸れる話題を提供し続ける方々が続出します。皆さん、早く自分のことを知ってもらいたかったようです。そうこ

うするうちにやっと一巡しました。続いて各自、席を移動して懇談開始…

宴の途中、欠席された田口先生（昭40）の近況報告がありました。横須賀に転出されますので、山本先生及び支部長のお別れの挨拶を収録します。リハーサル無しでしたから、カット・カットで、編集力に頼るしか手はないか。この同窓会の模様をDVDに納め、田口先輩へ記念に送ることになりました。撮影担当の橋本先生（昭51）（支部長夫人）ご苦労様です。

やっと、予定時刻となり、学部歌を合唱することとなります。ところが、平成の卒業生は学部歌を聴いたことが無いとのことで、諸先輩方はメロディーの講義を開始します。正調学部歌（重し、重しのメロディーが異なります。）は支部には馴染まないとのことで、変調学部歌を後輩に伝えました。2年前、同窓会会長から直々に手ほどきされたメロディーが後輩に伝わらなくて、誠に申し訳ございません。

学生時代、音楽を堪能された間瀬田先生と郡山

先生、さすがです。酔いのため音程が狂うのをうまくカバーされます。

学部歌に熱中し過ぎて、出席者全員の記念撮影を忘れてしまいます。誰からも、記念撮影が済んでいないとの指摘もありませんでした。筆者もデジカメを整理後、この原稿を書いて添付写真をとってから気が付く有様です。誠に申し訳ありません。動画を配信することで、お許し下さい。

山本先生、お疲れのところありがとうございます。小笹先生、安食先生、次回のご出席をお願いします。

二次会は九州男児3名と郡山先生、それにそのご夫人2名で出かけます。九州育ちは間瀬田、板倉、橋本の鹿児島・長崎トリオです。スナックでは出雲弁講座を開設。出雲弁なまりの九州弁、標準語では？と、頭の中が錯綜します。そこで、郡山先生とご夫人方が正しい出雲弁をレクチャーされ、講座が盛り上がる盛り上がる。

若かりし頃、出雲に住み着き、言葉が理解できずにとまどった日々、失敗談。結局、今は出雲人



になってしまったことで、一件落着でした。
この模様はダイジェスト版をHPで流します。

長薬同窓会山陰支部のホームページをご覧ください。
<http://www2.ocn.ne.jp/~kaku4/dousoukai-17.html>

広島支部

支部長 品川龍太郎 (昭44)

広島支部同窓会を、2年ぶりに、平成17年8月27日(土)センチュリーホテルにて開催しました。

会は松浦先生(昭16.12)の乾杯の挨拶に始まり、各参加者の近況報告に耳を傾けながら歓談しました。その中で、教育年限の延長と実習受け入れ、その教育を担当する認定薬剤師、病院の専門薬剤師、来年度のマイナス診療報酬改定等話題は尽きませんでした。薬剤師を取り巻く環境は厳しいものがありますが、薬剤師が社会にもっと認められるためには開局薬剤師、病院薬剤師、行政そ

れぞれ立場は違いますが前向きに捕らえて皆で協力していかなければならないと思いました。最後に校歌を斉唱し工藤先生の挨拶と、会員の皆様のご健康と一層のご活躍を祈念して乾杯し、来年度の再会を約して解散となりました。

参加者氏名(卒年)

松浦隆人(昭16.12)、工藤重子(昭32)、大石輝雄(昭35)、望月恵子(昭36)、左利龍彦(昭38)、村上剛(昭43)、品川龍太郎(昭44)、曾根正勝(昭46)、佐々木啓子(昭46)、青野拓郎(昭52)、中牟田弘道(昭53)、長柄真司(昭57)、小山田京子(昭60)、岸川映子(昭60)、手島希代子(平7)、手島賢二(平8)



山口支部

支部長 河野 信助 (昭17)



来年度開催の支部総会において、支部長の交代を予定しております。私の後任を昭和45年卒業の若松輝明君にお願いする積もりです。同君は現在、山口県薬剤師会副会長の要職にありますが、快く承諾してもらいました。しかし正式には支部総会の決議を要しますので、会員各位のご賛成をお願いする次第です。

これまで、山口支部は河田さん (昭32) や若松

君の他に、県庁在職中の森重 (昭48)、大平 (昭49)、廣野 (昭54)、伊藤 (昭55) 等の諸君によって運営されてきました。これからは新支部長を中心に、一層活発な山口支部となりますようお願いしております。

最後に、私事で恐縮ですが、私は大正11年生まれの戌年です。来年は年男で84歳になります。最近は老化進行のためか、体調不良が続きまして上記のような事になりました。昨年まであった健康に対する自信も危うくなりました。しかし、会員の皆さんにお目にかかることで、元気をもらうことができるのです。これからも可能な限り健康に留意するつもりですので、よろしくお願い申し上げます。

(追記) 最近の顔写真一枚同封。

熊本支部

支部長 山本喜一郎 (院昭55)

平成17年度の熊本支部会は、熊本市練兵町の和食「仲むら」で開催しました。「仲むら」は、数年前に支部会で利用したことがありましたが、全く違うイメージでリニューアルされていました。繁華街に接していながらも前庭、露地を設けてあり、ちょっとした隠れ家的な雰囲気のお店でした。熊本支部例会は、比較的小ぢんまりとした集いなので、美味しい料理と楽しい会話で皆さん楽しんで頂けるようにと、幹事としては会場選びに神経を使っています。

当日は、長崎からは、同窓会会計主任の伊藤先生のご参加をいただき、総勢13名の参加でした。また、今回も昨年と同様、第一薬科大学の松原 大先生 (昭58) にもご参加いただきました。松原先生は、薬学部硬式テニス部の後輩であることから、私が強引に誘っているのですが、なんと、先生のご長男がこの4月から熊本大学工学部に入学されたとのことで、ご子息が卒業されるまでは、これから毎年参加していただけると期待しております。

今年は開催時間を例年の午後6時から午後7時

へと変更し、薬局に勤務されている方々が参加しやすいようにと工夫したつもりでしたが、残念ながら結果的には例年とあまり変わらない人数でした。名簿によりますと、今年は新たに11人 (新卒1名)の方が熊本へ来られたようです。来年の例会 (9月の第一土曜日)には、より多くの会員の方の参加をお願いします。

会は、特別会員の鶴先生による乾杯のご発声で始まりました。続いて、伊藤先生から新校舎や大学の変化について話していただきました。伊藤先生は一昨年も会へご参加下さり、その時は、新しい薬学部の建築中の様子をご紹介いただきましたが、今回は本館の竣工記念祝賀会の時に紹介されたスライドを使って、新しい建物の内部を紹介していただきました。それを見ますと、私立の大学かと見まちがうほどの変わりようでした。ベンゼン環を模して六角形に配置された蛍光灯、学生の為のリフレッシュルーム (ピンク色)、大講義室が無くなって多目的ホールになったこと等々。トイレの照明がセンサー付きになり、じっと座っていると照明が消えてしまうというところでは、皆大爆笑でした。建物の変化だけでなく、学生もよく勉強するようになったとのことで、心強く思いました。また、一番の大きな変化は来年から6年制の教育体制が始まるとのことで、4年制は研究者

を養成し、6年制は薬剤師を養成するコースとして位置づけているとのことでした。また、独立行政法人化ならではのご苦労として、リクルートの為に各高校へ出向いて学生さんに4年制と6年制がどう違うのかという薬学部の紹介の説明を行われた話もお聞きしました。私立の大学ではそういう話は聞いたことありましたが、母校でもそのような話を聞き、時代の流れというものを感じました。

その後、恒例の近況報告が始まりました。今年は昭46卒の梶保さんが新たに参加して下さいました。梶保さんは、ご自宅は関西なので所属としては関西支部ですが、4月から単身赴任で化血研に勤務されているので、これから熊本支部の例会へも参加していただけるそうです。昭48卒の江川さんは、近々ご専門のパピローマウイルスに関する本を出版なさるとのことです。昭50卒の橋本さんは、この8月から佐世保市で開局なさったことで

した。佐世保の皆さん、よろしくお願ひします。

会は、美味しい食事をいただきながら、和やかな雰囲気の中で楽しく談笑が続きました。最後に記念写真を撮影して散会となりました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。体調不良でありながら、ありがたくも参加頂いた鶴先生は、途中退席なさいましたので、残念ながら写真には写っていらっしゃいません。鶴先生、ありがとうございました。

参加者は、

篠原 亮太 (昭46)	梶保 徳昭 (昭46)
江川 清文 (昭48)	橋本 次男 (昭50)
古川 真一 (昭54)	山本喜一郎 (院昭55)
秦野 正敏 (昭56)	松尾富士男 (昭59)
林 稔展 (平13)	森 豊美 (平15)
鶴 大典 先生 (特)	松原 大 先生 (昭58)
伊藤 潔 先生 (昭59)	以上 13名、敬称略



後列左から 林, 秦野, 松原, 江川, 山本, 古川, 松尾
前列左から 橋本, 伊藤, 森, 篠原, 梶保

鹿児島支部

支部長 森 昭雄 (昭28)

本年度の鹿児島支部会は11月5日(土)天文館居酒屋くん太で開催しました。平原裕久先生(昭51)

の司会で西協会長より長崎の近況報告をしていただき桶谷巖先生(昭16)の乾杯で懇親会に入りました。西協会長は今期で退任されるとお聞きしましたが、この6年の在任中に4回もご出席をして頂きました。支部会員一同心から御礼申し上げます。

今回は2年ぶりの支部会のためか、話題続出で所定の2時間半をオーバーしてひとまず記念撮影。

このとき吉見計光先生（院昭55）は福祉大会準備のため退席されました。その後最長老の桶谷先生はお帰りいただいて、あと若者？みんなでスナックへ、長崎シリーズのおさらいも済み、最年少の福永浩一先生（昭53）の万歳でお開きにしました。ひとこと

来年こそ準備委員会を作り女性パワーの具現化に邁進しよう。

地元で飲む焼酎の味はまた格別！

来年9月17日は九州山口薬学大会が鹿児島で開催されます。皆様のご来鹿を歓迎します。

今回の出席者は次の通りです。

西脇金一郎会長（昭33）	桶谷 巖（昭16）
森 昭雄（昭28）	池田 修一（昭37）
川島葉留美（昭39）	新平孝一郎（院昭47）
肥後 啓子（昭48）	平原 裕久（昭51）
平原富士子（昭52）	福永 浩一（昭53）
吉見 計光（院昭55）	



長崎支部ぐびろ会

会長 伊豫屋偉夫（昭41）

今年度の長薬同窓会長崎支部ぐびろ会の総会は、3年に一度長崎支部が担当で開催します長薬同窓会総会の前、平成17年6月11日(土)午後4時から長崎市筑後町のセントヒル長崎で49名の出席を得て開催しました。

昭和49年卒の馬場満輝先生の司会で開会し、平成6年卒の小畑滋先生（9月19日死去）を議長に選出し議事に入りました。

今年の議題では、毎年長崎支部が薬学部に行っていました20万円相当の医療薬学の図書の贈呈に替えて、昨年度は、薬学教育6年生が平成18年度から導入されるのに対応して薬剤師の卒後研修を

行うとともに、研究開発のために設立された薬学部教育研究活性化基金に20万円を寄付することとてしていましたが、その後の役員会で同窓生の教授を応援するのが同窓会としては必要ではないかとの意見が多くありましたので、今回地元の同窓会としては、長薬同窓生が薬学部教授である研究室に研究費として20万円を寄贈し応援していこうと提案させてもらい、参加者全員から提案どおり承認をいただきました。

昨年度は基金に寄付をしておきませんので、今年度は昨年度分も合わせて40万円を中島憲一郎教授の研究室に寄贈することとしています。

また、うれしいことに今年8月1日付をもって昭和57年卒（昭和59年院卒）の中嶋幹郎先生が薬学部の教授に就任されましたので、中嶋教授の教室にも研究費を寄贈することとしております。

今後とも、次々と長薬同窓生が薬学部教授に就任

できるよう、会員の皆様からいただきました会費の中から、長薬同窓生が薬学部教授である研究室に研究費として毎年20万円を寄贈していこうと思えます。まだ、今年度の会費を納めておられない方は、送付しています振込用紙で早めに振り込んでいただきますようよろしくお願いいたします。また、五島支部であったみなさんも長崎支部と一体となりましたので同窓会の活性化と薬学部の発展のためご協力をお願いします。

総会の折、長崎支部とぐびろ会はどんな関係か、別組織と思っていた、長崎支部だけでよいのではないか、など、特に若い会員の皆様から質問がありましたので、昭和17年卒の牟田邦彦先生に「ぐびろ会」について同窓会報に掲載するよう原稿をお願いしていますので、ご一読していただき長崎支部ぐびろ会は一体なのかと理解していただき、同窓会活動にご協力をお願いします。

平成18年度長薬同窓会総会ご案内

来ちゃんない 北九州へ!!

北九州支部長 末宗 成二 (昭28)

- ・と き 平成18年 6 月10日(土)
- ・と ころ ステーションホテル小倉
〒802-0001
北九州市小倉北区浅野1-1-1 (JR小倉駅内徒歩0分)
TEL 093-541-7111

今回は、北九州市で開催いたします。

NHK 大河ドラマ、今年は「義経」、去年は「宮本武蔵」と続けて話題をまいた壇の浦の戦い、武蔵と小次郎の決闘の島、巖流島、最近の門司港レトロでクルージングを楽しみ、本州と九州を結ぶ関門橋、また階段のない唯一の JR 門司港駅は、大正3年設立のネオルネッサンス様式の駅舎で一見の価値があります。

市内の中心部は小倉の魚町界限で、すぐ近くには小倉城 (1602年小笠原藩の居城)、そのすぐ横には松本清張記念館があり昔日を偲ぶことができます。また、小倉祇園太鼓の無法松の碑があり、足を延ばせば八幡のスペースワールド。また皿倉山からの100万ドルの夜景は、目を見張るものがあります。

酒は美味しい魚はピチピチ姉チャンは別ピン、この機会に是非来ちゃんない!!

支部会員一同、全国から、たくさんの方の参加を心よりお待ちしております。

クラス会および近況だより

老いて思い出すまま

谷口 順一（昭10）

小生は県の発令前に長崎県長崎中央保健所に勤務していたのであるが、昭和22年10月か、GHQの指示による、全国都道府県の衛生行政に携わる技術者の再教育が、東京の国立公衆衛生院で始められた。第1回目の出席者が3か月の再教育を受けて帰任の前に、第2回目の人選だろうが、どうでも再教育を免れないのであればと手を挙げた処許された。翌昭和23年1月7日、県公衆衛生課森川技術吏員の親切を受けながら、受講のため共に上京し東京都品川区大井南浜川町公衆衛生院大井寮に寄宿。敗戦日本のこととて食料不足の配給票による給食、空腹をなだめすかしながら、東京大井京浜立会川駅で乗車、品川で山手線に乗り換え目黒駅で下車、徒歩で白金台に所在する国立公衆衛生院に通学することとなった。この研修はすべて、GHQの指示を受けなければ時間の変更、研修生の処遇などについても変えられなかった。

細菌学の大家、小島三朗先生の授業の中で「かならず下痢を起こす細菌作用の人体実験をやって見たいのだが、希望者は居ないだろうか？」の話に、小生は元より若手県獣医師ほか数名が手をあげて実験が行われたが、下痢を起こしたものはいなかった。この実験の結果から判断の出来ることは、私達は懸命になって食中毒を起こす細菌を附着させない、繁殖させないように努力し、食品監視を厳重にしなければならぬが、これと同時に各人の普段の健康を維持しておく事が大切であることが判った。即ち、健康的に弱体化した人体にのみ各種の細菌が活性に働くということだ。

東京滞在中の給料は家に届けてもらってるので、

懐中は支給された出張費のみで豊かではなかった。毎日の空腹を紛らわすため、1日の授業後は夕食時までの間、靴下を繕い、かかとの破れを隠しながら、銀座、新宿を覗いたりして過ごしたものだ。銀座ではNHK藤倉アナウンサーのきびきびした街頭録音風景にも出会った。或時は戦前の勤務先東京陸軍軍医学校防疫研究室共に空地になっていた。

研修の3か月も終わろうとする時、GHQが3か月の講義が研修生にどれくらい理解されているか、テストを実施したいと言うのであった。これに対し私等は反対をした。テストそのものには反対はしないが私等は全国各県からの派遣者である為に、私等の成績で各県の序列が問われては各県の名誉に関わるからである。

院長は何いをたてた。GHQも之を了承してテストは中止となった。

やっと3か月の講習を終わり、昭和23年3月末に帰任して数日後、長崎県下の衛生監視員を本庁に集めて伝達講習会が開かれ講師は私だけだった。

昭和23年4月1日、大利茂久医師が県中央保健所長に発令。同8月には、中村誠、田浦正巳、三根常男、今市屋正次、平野元旦等の技術吏員が配置された。

昭和23年10月1日付けで県中央保健所が長崎市に移管されるに際し、所内全員に県市の希望を問われたのだった。

公衆衛生院で全国各県保健所衛生課長短期講習会に出張して留守のため昭和23年10月1日の辞令を3日に受け取った。

燃えた3年

松尾 康夫 (昭12)

昭和9年、薬専に合格した。入学式のとき、長崎医科大学の学長から訓辞をいただき、初めて実感した。いよいよ授業が始まり、大変緊張して、熱心に勉強したつもりだった。月日が、またたく間に山や谷を経て、過ぎ去った。その間、特に興味深かったのは、まず高取先生の授業だ。黒板に驚くべき早さで、薬用植物の断面を大きくしかも、緻密に書き、それを説明されたこと。次は植田先生が私達の教室に入り、先生の似顔と構造式が書いてある黒板を、ちらっと見て、平気でその前で講義をされた。私達はあらかじめ、その話を聞いていたので、まさかと思っていたが、それが実現した。次は小澤先生の授業中、「出た」という先生の声が飛んできたこと。など、しっかりと記憶に残っている。さて、折角だから、当時授業を

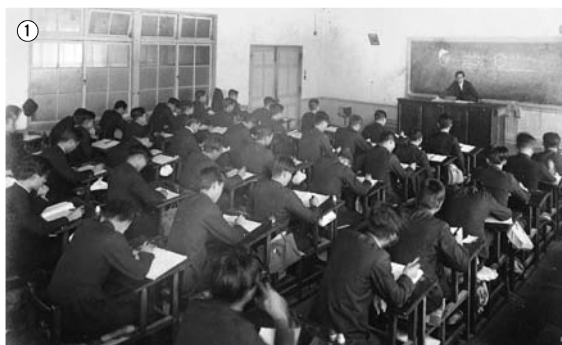
受けた先生および課目を紹介する。敬称は省く。

大倉 東一	無機製造化学
江口虎三郎	生薬学
末次 又二	薬化学
高取 治輔	薬用植物学、商品学
小澤 敏夫	ドイツ語、ラテン語
川上登喜二	裁判化学
植田 高三	有機薬品化学
高嶋 清	有機化学 等

添えてある写真は、①植田先生の授業、②校門（長崎医科大学と共用）、③学校の全景。

まだ書きたいことがあるが、写真で紙面をとるので、これで打ち切らせてもらう。参考になれば幸いである。

同窓生諸兄のご健勝を祈りながら筆をおく。



① 植田先生の授業



② 校門（長崎医科大学と共用）



③ 学校の全景

「グビロ」って何？

牟田 邦彦（昭17）

長崎に原爆が投下されて、はや60年になる。年、月の経つのは早いものだと思う。

原爆で母校が壊滅するまでは、坂本町の医大の敷地の中に附属薬学専門部として、グラウンドを隔てた向うに浦上天主堂を望み、グビロヶ丘の麓に校舎がありました。

グビロといえばドイツ語か何か横文字のように聞えますが、これがれっきとした日本語なのです。漢字で書くと「虞美路ヶ丘」となります。即ち虞美人草が咲きみだれる丘の路ということです。

ちなみに虞美人草とは「ヒナゲシ」のことで、あの項羽が愛したなよやかな中国美人のイメージそっくりではありませんか。

原爆で母校を亡くし、点々と校舎を変えて来た

戦後の学生諸君には想像もつかない同窓会支部名のグビロ会ですが戦前の同窓生にとっては、ロマンあふれる懐かしい名前なのです。

また、校章が柏の葉であることは誰でもご存じの事ですが、これは熊本の第五高等学校の校章が柏葉に五高と書いたもので、その五高を取った土台の柏葉のみが校章となったものです。

これは同窓会会則にもあるように、明治の始学制が定められた時、本校が第五高等中学校医学部薬学科とされたことに由来します。

戦後の皆様にも「グビロ会」に長薬同窓会長崎支部としての親しみを感じて戴ければ幸いに思います。

薬学専門部在学中の思い出

乃万 正（昭19）

私共昭和19年卒は、大戦下の就学期間短縮の時代に2年半の短い学生生活を送りました。在学中は戦争の最中でありながら、空襲など受けることもなく、多少制約はありましたが平和な普通の生活が送れました。

薬学専門部は、少人数の学校でしたから、先生、生徒、事務職員の方々皆顔なじみで家族的な雰囲気でした。平常日課は、午前教室で受講、午後は各自実習をやっていました。この頃は物資不足で食糧事情も悪かったのですが、実習用の試薬・器械等は充分備蓄されていたようで、殆ど不自由なく実習ができたことを覚えています。またレクリエーションは、枇杷刈り、みかん刈りなど、恒例となっていて、楽しい行事を満喫させてもらいました。

また当時は軍事色の強い時代でしたから、学校教練は必修重視課目となっていたので、毎夏大村

で兵営宿泊訓練にも参加いたしました。昭和18年の春には1年生、2年生合同で、小浜から雲仙まで徒步行進して雲仙に宿泊したことがありますが、一泊の予定が翌日降雨のため一日延期となったので、皆で余興などして遊びました。幸い三日目は晴れて帰路に着きました。その時雲仙から島原湾を見下ろした風景は雄大で美しく、今でも臉に焼きついています。

在学中は、江口先生が専門部主事で学校長の職務の傍ら、就職等の世話もされていて勤労働員中、アフタケアで大阪の製薬会社をお訪ねくださったこともありました。また学級主任は、高取先生でした。先生には平常良き学習指導を受けました。また時にはコンパに御家族とともに御出席されて皆と会食をした楽しい思い出もあります。ただ、私共の卒業せぬままで、ジャカルタの軍政地教授となり応召されましたので、お別れとなりさみし

い思いがいたしました。以上在学中の経緯の一部を思い出すままにお伝えいたしました。

あとがき

私共は短い学校生活でしたが、幸い戦禍を免れ

て、昭和19年9月に卒業いたしました。いま当時を振り返ってみると本当に幸運に恵まれていたものだとしみじみ感じます。

このようなことを踏まえて思いつくまま回顧録をしたための次第です。

長崎地区 26 卒会

中倉 敬昭 (昭26)

過去の人間になり果てたと雖も、^{イェド}集る事が出来るうちは集まろう、とお互いに言い合っている私どもの今回は、去る平成17年4月2日(出)、先ずは例によって長崎の諏訪神社に集まったのです。いつもの事ながら世話方をしてくれる長崎の篠田君、立石君、峰君達には、心の中で深く頭を下げるのみであります。

夕刻、セントヒル長崎での祝会、宴会に揃ったのが、全部で9名(本多、峰、篠田、永江、立石、江頭、田中(天本)、貞方、中倉)です。みんないい男です。勿論、見た目ではありませんので念のため。

今回は、残念ながら欠席の已むなきに至った黒田君を含めて、なんと5名もが祈願祝寿の該当者なのです。該当者の諸氏には、大いなる敬意を表してその氏名に殿付けと致しました。例の無責任記でプロフィールを少々許してもらいましょう。

1. 傘寿 峰 唯信殿

峰君はもともと高名な僧侶のご子息でしたが、卒後は関西の国立病院に就任された。私が知る学生の頃からの魅力ある性格というか、性情というのか、明朗にして優れた素晴らしいその人格で、厚生省国立病院部の人事担当官に、抜擢任命があって、人事関係を任されたそうです。最終は国立長崎病院、薬剤部長で定年退官、現在は卸薬品に籍を置きながら僧籍を併せ持つ2足のワラジ、更に町内会などの役員を、まだまだやめさせてもらえないと言う、80歳になんなんとして正にバケモノ的存在でありお見事というほかありません。

筆者の私は、諫早小野島3年のとき、峰君のお世話で小野島のお寺、静行寺に彼と共に下宿させ

てもらって精進料理を食し、静まりかえった納骨堂横の部屋に寝起きをしながらか、よく遊び、よく遊び、そして学んだ盟友なのであります。

2. 喜寿 貞方 典殿

幼少の頃は長崎市で育ったエリート、その後諫早そして佐世保市に永住。聞けば先祖は五島のお殿様の系列で由緒ある家柄、今も五島まで墓参りを欠かさないという、つまり士族であって、世が世であれば、平民の私が対等に話す事が出来る身分ではないのです。

卒後は、佐世保市立市民病院(現佐世保市立総合病院)に就任、その後生化学検査のチーフに抜擢されたものの、当時設立されていた民間の検査センターが、有能な彼をそのままにしておくわけがない。引き抜かれて検査部長から間もなく重責の社長となり、検査業務と会社経営の手腕を発揮、長年多大の貢献をして退任され、現在、相談役の立場で悠々たるものであります。

26年卒の佐世保出身は私一人のみであったのですが、彼が佐世保に永住してくれたので極めて心強く、公私とも何かと世話になっている次第で、親友とは有難いものです。又不思議な因縁か、二人共老いて残った趣味に囲碁があって話題に事欠きません。

3. 喜寿 立石正文殿

いつ会っても若々しく元気そうで、喜寿とは、俄に信じ難い。会の会計をはじめ世話方の労を惜しまないそして親切、且つ真摯な人柄で貴重な存在であります。

卒後は、長崎大学附属病院の薬剤部勤務が長い

と聞きますから、その道の経験的话题は豊富と推
察されますが、その詳細を知りません。

尚、彼はアルコール類を全く嗜まず、又私ども
がやっている囲碁もやらないのですが、横で見な
がら、時折発する言動の中に「能ある鷹は爪を隠
す」のでは、と推察させられるものがあるのです。

4. 喜寿 江頭文昭殿

中身はともあれ、颯爽としたスタイルは、喜寿
ほど遠しと感じさせます。学生の頃は名キャッ
チャーとして野球部でならし、その強肩とリード
は周囲を沈黙させたといいます。事程左様に抜群
の運動神経は、今日老いて尚ゴルフの腕前に見る
可きものがあるらしい。只、ひとつ飲み^{ツグイ}そうで全
く飲まないのがアルコールの類ですが、信じられ
るのであります。

5. 喜寿 黒田隆次殿

黒チャンこと黒田君のことは、彼が晩年故郷の
諫早に帰り、この会に加入した平成11年の歓迎会
記事や、彼自身の投稿文などが会報にあるので省略
ですが、今回体調不良で欠席だったのは誠に残念
至極です。むしろ彼自身が囲碁の上達を披露でき
なかったこともあって、さぞ残念がっているだろ
うと推察しています。後日、貞方君が直接彼に電
話したそうですが、元気な声であったと聞き、先
ずは安心しているところです。

以上の5名が祝寿該当者ですが、実は数年前、
この会に加入していると聞いていた五島在住の中
村和正君は今回喜寿の該当者では、と思っていた
のです。しかし昨年の平成16年11月に死去の知ら
せ、痛恨の極みであります。彼は五島の福江で大
きな薬局の経営でもって財をなし、五島の知名氏
であった由。又私事で恐縮ですが、彼の娘婿であ
る菅原正典氏(昭51)は、かつて筆者が勤務した
佐世保共済病院薬剤部に短期間ではあったが勤め
られ、中村君の娘さん(昭53)との結婚披露宴が
長崎東急ホテル(当時)で行われた際に招待を賜
り、当時の病院長(故人)と出席しました。その
時の媒酌人は、勉強に勉強を重ねて、長大葉の教
授に上り詰めた昭25卒の古川 淳氏ご夫妻でした。
菅原君という立派な良き後継者を得たであろう中
村君の安心した喜びの顔を思い出します。この会
では一度も会う事がなかったのですが、平成13年
の長崎日昇館での昭26卒全体同窓会で会いました
ので、雑談の折「大金持ちになっても墓の中まで
は持ってゆかれんばい」「いや、そがん金持ちじゃ
なか…。」なんて言うやりとりをした記憶がありま
すが、今となっては何とも、にがい様な、切ない
気持ちになります。

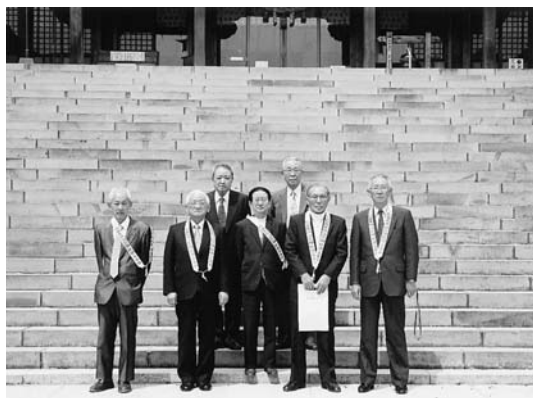
只々冥福を祈るのみであります。

さて、セントヒル長崎では、黒田君の欠席が残
念でしたが例によって例のとおり、篠田、本多の
両君を相手に私と貞方君が囲碁の相手をやり、夕
刻までに揃った9名の全員で祝会です。



セントヒル・長崎にて

永江 中倉 本多 篠田 田中(天本)
貞方 峰 江頭 立石



諏訪神社にて

篠田 中倉
永江 峰 立石 江頭 貞方

所詮は老人の集まりですから、個人差はあるにしても、刻一刻とガタが増し、老化現象は避けられないのですが、いずれ又、より元気で集まりました

いと願うのみであります。

(平成17年9月1日記)

昭和28年卒クラス会

永田 久利 (昭28)

長崎での卒後50周年記念クラス会から2年が経過し、今回は福岡の当番で5月28日、博多の奥座敷とも呼ばれている二日市温泉大観荘で開催しました。幸い天候にも恵まれたクラス会となりました。

今まで、28年卒のクラス会は、一度も1泊して開催することはありませんでしたが、そろそろお互い喜寿を迎える年頃にもなったし、ここでゆっくり温泉にでも浸り、お互いの健康状態や近況を語り合う機会を持ちたいと1泊2日を企画しましたところ、北は仙台、東京、南は鹿児島という遠隔の地からも参加され、全員で13名の出席となりました。遠方から来ていただきました皆様方には深く感謝する次第であります。

宴会は、入浴後リラックスした気分で始まりましたが、話題が豊富で特に一人ずつの近況報告では、まだ現役で働いている方もいれば、ボランティアとして社会福祉に貢献されている方、また生業の知識を生かした趣味に打ち込んでおられる方など多方面にわたっての活躍には本当に感心させられました。

二次会は部屋に集まり夜が更けるのを忘れるほど会話が弾み、楽しい一夜となりました。

翌日は、お互いの健康と再会を約し帰路につきましたが、一部の方々は太宰府天満宮を始めとする多くの史跡が存在する太宰府市に足をのばし、観光と史跡めぐりを楽しみ解散されました。



後列左より 山口、小川、森、一ノ瀬、吉末 (旧岩佐)、寺田 (旧高取)、永田 (旧田中)
前列左より 森、松尾、山野内 (旧荒木)、田中、池上、服部

個人的近況報告「絆」

服部 俊明 (昭28)

朝の連続テレビ小説「ファイト」を毎朝見ている。厩舎に於ける馬主、調教師、厩務員とその助手（ヒロイン優）が夢を乗せて走る物語である。是は私の生い立ちと共通する所があって彷彿と往時が甦る。

私の小学校時代は国策によって富国強兵の真っ只中。音楽の授業は軍意高揚に繋がるものが多かった。歌詞は「僕は軍人大好きだ 今に大きく成ったなら 勲章付けて 剣さげて お馬に乗って はいどうぞ」等々だ。

家には栗色で精悍な愛馬の雪号が居た。父が陸軍馬術学校出の軍人だったからである。写真でみる父の乗馬姿は背を伸ばし胸を張り勲章付けて、剣下げた雄姿は見るからに威厳に満ちて頼もしい存在だった。そういう姿に憧れていた私は、中学1年の時父の厩舎での仕事を買って出た。それは厩舎の清掃に始まり、飼葉の調製（細かく刻んだ牧草に人参や果物、米糠等を混ぜる）と飼育の他に毛並みを梳きブラッシング等何でもこなした。

馬との信頼関係が出来た頃父は私に乗馬の訓練を始めた。教え方の上手な人で、自分で楽々と乗って見せて、私に乗らせてみて、誉めてやると言う手法だった。不思議に馬は従順だった。こうして馬の心理と癖も教わり、父の指図で馬具の鞍や手綱を装着し、鬘を掴んで乗馬を試みた。馬の背は高い。発進時の鎧裁きと手綱の操作では厳し

い指導を受けた。人馬一体。馬との信頼が不調和の時には馬の暴発や暴走で命にも関わるといふ。速歩、駆走、停止、後退、急速旋回、傾斜地での登り降り、障害飛越、着地の基本を教えてくれた。

また飼葉の調製不良（牧草の裁断不足）で馬が激しい疝痛を起こした事もあった。この病状を逸早く見抜いたのは父だった。早速獣医を呼び、下剤浣腸の後、獣医は肛門から右手を肩まで大腸に突っ込み、消化不良で絡まった糞を取り出した。病状が回復したのは朝方だった。

その後この雪号は軍の命令で召集に掛かり、ある部隊長の軍用馬として日中戦争で活躍したといふ。

戦後は高校、大学とも私設の乗馬倶楽部に入門した。部員は皆馬が好きだった。でも馬に触れた事も無い学生も居たので私は臨時の指導員代行をすることもあった。

以前には走れ走れコートロウ、ハイセイコウ、ハルウララ。今や騎手は武豊と話題は尽きない。振り返れば洋の東西を問わず王室や貴族の軍国と富や権威の象徴だった馬が、現在は娯楽とギャングと平和の象徴である。

馬との付き合いは自然環境の中で人馬一体の絆と信頼が基本である。私の原風景は馬との触れ合いに始まり、今までの社会人生活の支柱と成っているのである。

三朋会 長崎・大村をさるく

森田 勉 (昭30)

梅雨入り間近の5月25日～27日、卒後50周年という節目の記念すべき年に、長崎市と大村市において第18回三朋会が実施されました。

25日17時ウエルシティ長崎にてチェックインが進む中、実に50年振りに再会する光景も見られました。全員宴会場に移動し、参加者17名の記念撮

影を終え、代表幹事山本氏の歓迎挨拶と乾杯に続き、最初の会食が始まり旧交を温めながら思い出話を花を咲かせ、第1日目の夜が更けて行きました。

翌朝、ウエルシティ長崎を観光バスで出発、一路日本の窓、文化の窓口出島資料館へと向かい、

約40分の散策後次の予定地グラバー園へとバスは進みます。

途中、長崎港の一部を埋め立て完成した水辺の森公園や開館間もない長崎県立美術館を横目に、その著しい変化に参加者全員が目細めていた事と思います。グラバー園専用駐車場から徒歩で国宝大浦天主堂の下を通り、動く歩道に導かれ、グラバーを始め日本の産業に貢献し、新しい時代への扉を開いた長崎居留地の人々が暮らしたグラバー園へ到着、長崎港や浪漫都市長崎の市街地を一望できた事で、また新しい長崎を発見した事でしょう。

12時中華料理店四海楼にて昼食、長崎港や水辺の森公園、三菱重工長崎造船所等を見廻しながら、本場長崎の中華料理に舌鼓を打ったものです。食事後、中国文化の真髄にせまる珠玉の品々を納めているといわれる孔子廟へ到着。龍の御道石、石人、一角獣、72賢人像等を見学すると異国情緒豊かな思いが漂うものです。

孔子廟を後にし、長崎駅前を通り平和祈念像へ。到着後、祈念像を背に記念撮影。敷地内を散策後、永井隆博士ゆかりの如己堂前を通り原爆資料館へ。祈念像や資料館についての説明は不要であろうと思いますが、核兵器のない世界をめざし、時には平和について考える事が大切である事が改めて思い知らされました。まさに「平和は長崎から」であります。

さて、本日最後の訪問地は長崎大学薬学部学舎。

その内外を見学するのが目的です。まず現在は教育学部の附属幼稚園に様変わりしている旧薬学部前に到着。我々が在学した当時の面影が全く見当たらない中、ただ一つ旧学舎前の蘇鉄がよく成長し微風そよかぜになびきながら我々を手招きして、迎えてくれているような感じを受けたものです。数分後、後髪を引かれる思いで蘇鉄には無言で惜別。いよいよ大学に到着、新学舎は初訪問なので多少の不安をいただきながら学舎内に入れさせていただいた。あちらこちらの部屋を覗いてもしばらくは何の収穫もなく、不安が徐々に募り出す。ちょうどその時、偶然にも2階のエレベーターから降りて来られる前学部長の中島憲一郎教授に会い、まさに地獄に仏の思いがしたものです。(教授とは小島氏、馬詰氏が知友人の間柄)。先生には御多忙中にもかかわらず、各部屋を一つ一つ丁寧に御案内していただき、非常に感謝している所です。ただ、我々の時代と違い学生諸君の服装は勿論、授業の受け方や各部屋の機具装置等が進化していることに驚きを覚えたものです。本当にありがとうございました。

時間は徐々に過ぎ去り、いろいろの思い出を辿りつつウェルシティ長崎に戻り、2日目の夜を迎え、又旧交を温める事が出来ました。

最後の朝、郷野氏、帆士氏、山本氏の車で大村に移動。西日本随一の30万本を誇るといわれるが、まだ三分咲き程度の花菖蒲園や旧教養部跡(現長崎県立大村城南高校)、大村神社又自分の旧下宿跡



等を散策し昼食場所の料亭「てん新」に向かう。

いよいよ今回最後の会食だが、食べきれないほどの御馳走が並び「食べきらんばい」などの声も聞かれました。時間も刻々と過ぎ去り、いよいよ別れの時がせまった頃、代表幹事の山本氏からの参加者に対する感謝の言葉に続き、次回第19回三朋会開催予定の関西の峯 武麿氏から簡単な予定説明があり、別れを惜しみながらもまたの再会を楽しみに飛行機で帰る人、マイカーで帰る人、諫早から特急列車で帰る人、島原鉄道で帰る人等い

ろいろな交通手段で帰路につきました。

第18回三朋会は長崎と大村をこのようにさるきました。

参加者：

山戸	寿	江口	皞	馬詰	久子
川上	万里	小島	弘	近藤	淳子
宮崎	タツ子	副島	英夫	高橋	侃
鎌塚	紀子	酒井	裕子	帆士	辰雄
郷野	美智子	峯	京子	峯	武麿
森田	勉	山本	勲		

S 31年卒ハマのクラス会

村上 元 (昭31)

平成17年度のクラス会開催は、幕末に開港し、我々にとって全く縁が無いとは言えない近代病院の発症の地である横浜で、ベイブリッジが正面に見渡せ、ランドマークタワーが聳える「みなとみらい」を選んだ。23名という多くの参加者を得て、初日の4月24日は、横浜グランドインターコンチネンタルホテル内の料亭「なだ万」で宴会、大いに盛り上がった。

ところで、横浜市中区には近代的な「みなとみらい」とは対照的な古都を髣髴とさせる三溪園がある。この三溪園の広大な園内は、鎌倉や京都など各地から移築された十指に余る貴重な古い時代の建築物が春緑の中に点在していて、古都の風情と静かな美しさを満喫できる場所である。二日目

は、この園内に所を移して散策し、うららかな春の一時を過ごした後、新横浜駅で一部の帰宅組を見送った。さらに時間的余裕のある残り16名は、横浜から東名御殿場を經由し、富士の高嶺を遠望しながら西伊豆へと足をのばし、駿河湾を眼下に望む宇久須温泉で二日目のクラス会を楽しんだ。

来年は大学卒業後、半世紀という記念すべき年？に当たりクラス会開催場所は長崎と決定している。年の経過と共に、クラス会でお会い出来なくなる方が出てくるのには寂しさを禁じえない。健康寿命という言葉があるが、老化に抗して来年のクラス会、さらにその先のクラス会の参加に向けて健康寿命の維持に努め、再会を期待したい。

関東在住世話人一同



「みなとみらい」にて



三溪園にて

伊豆下田での同窓会

深山 英伍（昭32）

“泰平のねむりをさますじょうきせん たった四はいで夜も寝られず”とはその昔、アメリカのペリー提督率いる黒船が初めて下田港にその姿を現して、日本中を揺るがした時の有名な詩。今年のクラス会はこの伊豆下田に決めました。時折りしもアメリカンジャズミンの花、今盛りと咲き乱れ、街の中はその甘い薫りがただよい、私たちが歓迎してくれている様でした。

伊豆と言えば先ず魚の美味しいところ、気候温暖で数多くの有名温泉の湧き出し場所、文学的にも歴史的にも名所旧跡の多いところ、誰しも一度は行ってみたいと思うところ。東京から更に急行で3時間の道程、少し遠いかなと思いましたがこんな機会でもなければ滅多に行けないところと言うことでここに決めました。

あとは「伊豆踊り子号」で来る皆さんを待つだけ…二度に亘り駅頭に出迎えましたが一番ヶ瀬先生他11名、懐かしい面々皆元気な顔を合わせる事ができたとき、正直ホッとしました。まあ！よくも遠路はるばるご苦労さん！

夜は眼下に瑠璃色の海をのぞむ小高い丘の上に建つホテルの広間で、盛り沢山の海の幸を囲んでの和やかな宴会、会が盛り上がるうちに思い思い

にスナップ写真を撮ったり又記念写真を撮ったり。宴会のあとは一番ヶ瀬先生の部屋に集まり、夜の更けるのも忘れて語りあいました。ここで忘れていけないのが伊豆ならではの露天風呂、遠く沖合に点滅する漁り火をながめながらの露天風呂は格別。忘れえぬ旅の一頁を飾ることができたと思います。

翌日は雨模様の天気、昨年長の崎での同窓会は雨の中、せめて今日一日はと願いつつ2台のタクシーに分乗してホテルを8時30分に出発。先ずは黒船を模った遊覧船で湾内を一周、そのあとペリーと日米和親条約を結んだ舞台となった寺、唐人お吉の墓所、吉田松陰がアメリカ渡航を企て潜んだといわれる岩穴、観光案内のタクシーに任せて随所を巡りながら伊豆高原のお花畑で花の前に記念写真を一枚。観光所を周り終えたところでお昼。昼食は金目鯛の姿煮、伊豆下田は全国で有数の金目鯛の水揚げ量の多いところ、名物と自負するだけあってその見事なこと、大皿の上に体長40センチもあろうかと思われる程の金目鯛がまるごと一匹。お店のお話では海がしけていて今日のは少し小振りだとか、いつもはもっと大きいのだそうです。味の方も格別でした。



今回のクラス会を締めくくるに十分なインパクトのある昼食でお開き。

これから富士五湖方面へ向かう人、一足先に東京にもどる人、私たちも一番ヶ瀬先生と下田をあ

とにしました。

来年は福岡の榊さんに幹事をお願いすることにしました。福岡での元気な顔での再会を楽しみにしております。

沖繩(H16年)と嬉野(H17年)での参楽会

三浦 博史 (昭33)

沖繩での参楽会(平成16年11月8～10日)報告が前年度会報の原稿縮切り(10月末)に間に合わなかったため、嬉野でのミニ参楽会(平成17年6月12日)の分とあわせて報告させていただきます。

沖繩参楽会には、私は病気で参加できず、ほかのどなたかに会報原稿を頼んでおくべきだったのに、その機を逸してしまいました。同窓会長の西脇君も他の世話役などで忙しそうだし、沖繩参楽会の分については、西脇君から送っていただいた

参楽会近況報告(平成16年12月1日)の内容から部分的に抜粋させて貰いました。括弧内の文がその部分です。

『11月8日から2泊3日の沖繩参楽会は大城清吉氏の1年がかりの素晴らしいプランにより、17名(内、夫婦同伴2組)が無駄のない時間を楽しく過ごすことができました。ここであらためて大城氏に心からお礼申し上げます。また、大城氏は我々のお世話のみでなく、今回の行程を中心に旅



参楽会 in 沖繩 平成16年11月8日 於 松乃下



参楽会 in 嬉野 平成17年6月12日 於 大正屋

行者顔負けの写真入りパンフ「参楽会 in 沖縄」なる小冊子、とはいえ36ページに亘る代物を作っていただき、参加者全員に寄贈してくれました。残念ながら欠席者全員に差し上げることは無理ですが伝言板（欠席者の近況報告）に掲載された方にはお分けすることにしました。…】

なお、松浦君と江頭さんは夫婦同伴で参加して下さいました。会に出席できなかった私まで豪華なカラー冊子「参楽会 in 沖縄」をいただき感激でした。実際に訪れた観光地と沖縄雑感（再度のご来県のために）の沢山のカラー写真が解説付きで掲載されていて見ごたえがあり、しかも鮮やかな南国的な色彩は沖縄のイメージにぴったり。写真を見ているだけで、自分もクラスメートと沖縄参楽会に参加したような楽しい気分になりました。旅費なしで豪華な旅行気分を味あわせてもらいました。大城君本当にありがとうございました。

平成17年度の長薬同窓会総会（6月11日）が長崎で開催されたのを機会に、その翌日、嬉野温泉・大正屋でミニ参楽会を行いました。準備段階から、当日の世話まで、西脇君が率先してやってくれました。定期総会のことだけでも何かと大変だったろうに、本当にご苦労様。ミニ参楽会には16名が参加。そのうち9名が前日の長薬同窓会総会にも

出席しました。ミニ参楽会には用事があり出席できなかった内堀君とも総会の懇親会で歓談でき、総会の懇親会がミニ参楽会の前夜祭のような役目を果たしてくれたようです。総会出席者も増えるし、これこそ一挙両得ですね。

いつものように、参加者と欠席された方々の近況報告に始まり、楽しい宴会となりました。やはり歳のせい、お酒の量はみなさんだいぶ減ったようです。わが参楽会も「同窓会病気の話で盛り上がり」（高守さんの話）になってきましたが、盛り上がることで少しでも元気がもらえるのなら参楽会様々です。「参楽会にだけはぜひ行かせて欲しい」とご主人にはそのことで同意を得ているとの山本さんの話に、参楽会のクラスメートの絆の強さをあらためて感じました。私は海外旅行の予定があったので、宴会終了後失礼しましたが、ほかの皆さんは旅館の送迎バスで、旅館近くのホテルの名所にホテル見物に行き、その後、部屋で二次会を楽しんだそうです。ホテルの乱舞は見事だったとのこと。

次の長薬同窓会総会は北九州地区で開催されます。その機に辻君のお世話で参楽会を開く予定です。皆さんとの再会を楽しみにしています。どうぞお元気で。

古文書に触れて — 出島の科学展から —

松尾 幸子（昭34）

平成12年10月18日皇太子殿下をお迎えして長崎市立博物館において『日本の近代科学に果たしたオランダの貢献「出島の科学展」』が開幕されました。日本とオランダの交流400周年を記念した特別展（10月18日～11月26日）です。関連刊行物として「出島の科学」長崎大学出島の科学刊行会編著、「出島のくすり」長崎大学薬学部編などがあります。

特別展に携わる薬学部の取り組みは大変だったろうと推察されます。第2章19世紀における医学、薬学、博物学と薬学の発展の部では130点が展示されました。その中に長崎市立博物館蔵の古い小さな紙片、『御返答書「薬草十二種植付の件」』、『お

触れ「唐蛮薬種植付に関する件」』の2点がありました。担当されたのは薬用植物園の北村美江先生（現環境科学部教授）です。北村先生は私よりずーっと後輩ですが、たまたま日本女性科学者の会のメンバーであったが故に交流の縁があり、また、私が古文書講座で市立博物館に出入りしている関係からこの文書の解説をお手伝いしました。

専門家は断片でもその価値が解るらしい。翻訳したものを見て興味を抱かれ、この度一つの論文として発表されました。〔薬用植物の導入及び栽培に関する史的研究1. 『御返答書「薬草十二種植付の件」』についての考察〕北村美江、松尾幸子〕として薬史学雑誌第40巻第1号（2000）に掲載され

ました。私にとって無縁だった薬学分野でお役に立つとは思いがけないことであり、古文書を始めて日が浅いにもかかわらず解説翻刻したばかりに新しい発見に遭遇するとは何と幸運でしょう。

私は卒業後現熱帯医学研究所で研究室生活すること38年間、退職後とりあえず陶芸に手を出し、草花を植えたり、小旅行を楽しんでいましたが、旅先で右手首を複雑骨折、右手は全く使えなくなり陶芸は諦めざるを得なくなりました。そんな時、平成10年秋、長崎市立博物館で古文書講座（講師原田博二館長）募集の広報を見て、これならば目と耳があり、若いとき変体仮名を多少習ったこともあるので参加できるだろうと軽い気持ちで入会しました。取り組んだのは、唐人番日記や巡検御上使下向一件書留などいずれも江戸時代の長崎に関する文書です。唐人番日記は翻刻したものが長崎市立博物館報第40、42、43号に掲載するまでになり成果をあげることができました。

長崎はご承知の如く鎖国時代外国に開かれた唯一の窓口として貿易が盛んでした。長崎に輸入された薬草の中には朝鮮人參、沈香、大黃、泊夫羅、山茱萸、酸棗仁、甘草、杜仲、貝母、土伏苓などがあり、その他全国に広まった長崎一番というものにハム、コーヒー、チョコレート、ビリヤード、

バドミントン、ボウリング、フェルト、アスファルト、写真、近代印刷、汽車など枚挙に遑がない。長崎は原爆に遭遇し貴重な資料史料の大半は焼失しているものの残った史料の中には日の目を見ない文書類は多い。保存されている文書・断片からお宝が見つかる可能性は十分にあるでしょう。

もうひとつ出島の科学展で思い出されるのは展示物の借り受依頼に出かけられる大橋 裕先生、富永義則先生、田中 隆先生に同行し佐賀市にあるウサイエン製薬を訪れたことです。展示物16点を貸与されましたがこれは所蔵されている資料のほんの一部に過ぎません。蔵の中には石炭箱、りんご箱に収められた文書類が埃塗れに埋もれていました。ここにも未曾有のお宝が眠っていることでしょう。

いま、古文書講座では長崎代官所役人を務めた金井八朗翁備考録を読み始めたばかりですが、御薬園に関する項目があるので新しい発見があるかも知れぬと楽しみです。

右手首骨折は私の余生の運を変えたのでしょうか。退職するとき、わが黄昏設計図の中に古文書は描いていなかったのに。古文書の世界もおもしろいと思うこの頃です。

三葉会日田に集う

白土 宮人（昭34）

平成17年度の三葉会（昭和34年卒の会）が5月28・29日の両日、大分県の日田市で開催された。

五月晴れがずっと続いていたのに、突然その日だけ雨と予報され心配したが、幹事さんの一人が、「私は雨女ではない」と言い張っていて、これが正しかったのか当日は汗ばむ青空となった。

28日午後3時過ぎ、日田の豆田地区に博多駅からのバスが到着、ホテルに直行していたグループと合流し、18名全員（男性7名女性11名）が勢揃いした。1年ぶりの再会は騒がしい。それぞれ「お元気そうで」を繰り返しながらお互いの健康を讃え合った。しばらく散策の後、早速お土産を買い込んでホテルに移動。

今年の会のテーマは“浴衣を着て屋形船で鵜飼を楽しむ”となっている。

一風呂を浴びてロビーに集合。途中でオーッと歓声上がる。色とりどりの浴衣に着替えた諸姉の予想を越えた艶姿に対するもので、歓声へのはにかみが昔日の面影をみせて可愛い。

屋形船が川に出て宴会開始。初夏の澄んだ夜景が広がっていく中、爽やかな初老の紳士と華やかな諸姉の姿はさすがに貫禄、凜としていてこの中を川遊びの楽しい雰囲気盛り上がりしていく。

やがて篝火に照らされて鵜飼の船が4、5艘やって来る。鵜達が水面で忙しく浮き沈みして芸をみせてくれるが、篝火だけではよく見えない。

後ほど鶴匠に伴われ、ご挨拶の訪問があったが、鶴達は船端にツンと留まって人間には興味がないのか、この華やかな集団にも全く無関心の素振りであった。

川風が少し冷たくなった頃ホテルに帰還し、一部屋に集まって二次会となる。

それなりにまだ職を得て社会に貢献している方が多いようであった。夫婦二人でどうして過ごしている…?が大きな話題であった。一病息災が当然、前立腺の検査の話は実感を伴って面白い。お孫さんの最年長は高校3年生との事、うちの子はまだ独身なのにも聞こえていた。今度の運転免許の更新時は高齢者講習を受けなければならない事、これからまだ車を新しく買い換えるべきか…、話は尽きない。

翌日はサッポロビール日田工場の見学、新鮮なビールの試飲でプオーツと息を吐く。ここで1名が別方向に向かい、新たに1名が加わって歴史の町秋月に移動した。

秋月では名物の“川茸と葛きり”で昼食を済ま

せた。川茸は名物のわりには正体が不明でよく分からない。でもこの味は正体不明として皆さんには旅の新たな話題の1つに加わったに違いない。また諸姉には優しい色の草木染が人気であった。

その後九州道をひた走って、3時過ぎに博多駅に到着して解散した。

幹事さん達の話では、会場の下見に来た日、3月20日、福岡西方沖地震があり、道路が閉鎖されて帰るに帰れず、家の事が心配で…、との事であった。平成17年度の会とはとんでもないエピソードを伴っていたようである。

次年は金沢か能登との事、まだ流動的で次回幹事の特権で決められるようであるが、何処であっても楽しい事は大歓迎で、新しい案内を待っています。

今年参加出来なかった皆さん、来年は是非参加して下さい。

幹事さん達、大変お世話になりました。皆さんお疲れ様でした。



三葉会 平成17年5月28日 於 日田亀山亭ホテル

同 期 会 私 感

井上 明子 (昭35)

会場奥の舞台の袖で、桑山寿美子さんの手品が始まったのは、宴が開かれてまだ間のないときであった。

今日こそは何とかそのトリックを見破ろうと、懸命に見つめていた私の目の前で、3枚のカードに描かれた数字が次々に変わってゆく。

「もう、ネタは見えとるばい」

ちょっと遠慮がちにとぼす桑山良照さんのヤジは、むしろ応援歌だ。マジシャンの手元を懸命に追っかけていたはずの私は、早くもついていけなくなっている。

彼女のみごとな手捌きに幻惑されている間、3枚のカードには「祝」「45」「周年」の文字が組み立てられた。

05年10月1日。私たちは、長大薬学部卒業後45年を期して、長崎・南山手に建つ全日空ホテルに集って、再会の喜びにひたっていた。

それにしても、はるばると歩み来しものかな！

改めて周りを見まわすと、この長い時の堆積の中に、大学で学んだ知識と技術を基盤に実社会に貢献してきたという自負であろうか、価値ある人生を積み上げてきた人たちの持つ充実感のような静まりが、瀟洒なホテルの佇まいとよく溶けあっていた。

補正の薬学 命と励む

我ら立たずば 蒼生いかに

長崎への途次、広島から参加の元永育子さんと特急かもめの席を隣り合せてきたが、そこで彼女が細かに話して下さった、調剤に際して求められる万全の注意と細やかな心づかいについて、正直、ある種の感慨を抱いた。そして、この種の仕事に就いたことのない私は、いつも病院で手渡されるくすり袋を何げなく受け取ってくるばかりであったことを恥じた。また、もう随分以前のことになるが、同窓会からの帰途、複数の病院でくすりを処方されている患者さんの、その作用の重複を避けるシステムづくりに思いを傾けていることを熱

く語られた井上 治さんは、今回も出席されていたが、ゆっくり話をする機会を逸した。

ずっと病院薬剤部で仕事をされてきた渡辺三二四さんが、今度、介護施設を立ち上げられるという。時代の要請に応える有意義なお仕事であり、ここでも、薬学の知識や実務の経験が大きく活かされるであろう。

今回、出席の21名の多くが、まだ現役で仕事に携わり、長谷川宏明さんのように大学で後進の指導に当たっている人もある。

そんな中、高木 康さんが10月9日の広島に於ける日本薬剤師会学術大会で、平成17年度日本薬剤師会賞を受賞されるという報告が、木下敏夫さんからもたらされた。これは薬剤師に与えられる最高の賞なのだそうである。大学卒業後、一筋に歩んでこられたその歩みの着実さが、こんな形で顕彰される。これは、彼ひとりだけでなく、長業同窓生みんなの喜びであると思う。そして、薬には、ただ、その恩恵を与えられるばかりの私のようなもの、その榮譽の末端に連なっている、と思うことを許されたいものである。

宴はたけて、先ほどからマイクを手に歌い語っているのは山本 剛さん。彼がかくも素晴らしいエンタテナーであることを、学生時代には知らなかった。デジカメやビデオを手に会場風景の撮影に忙しいのは、メカにつよい藤岡 健さんをはじめとする主に男性陣。私にとって卒業後初めての再会となった田川真隆さんとは少しだけ言葉を交わしたが、佐伯寿美さんや足立 寛さんなどとは、お元気でしたか、との思いをこめた目礼を交わすにとどまったことを心残りに思う。幸い、関西からの北島四郎さん、関東の中尾哲朗さん、北九州の石飛昭汎さんとは、少しずつながら会話を楽しむことができた。

二次会もお開きになった後、ホテルの中の隠れ処に女ばかりが集って、おしゃべりに夜の更けるのを忘れた。

草野房子さん、荒川清子さん、どちらも学生時

代からの才媛ぶりは変わらない。西山由美子さんのイギリス・フランス長期旅行のお話、雲仙『福

田屋』を守っている福田葉子さんの奮闘ぶりなど、秋の夜長に話題の尽きることはなかった。



再出発 —36年卒同期会（東京）に出席して—

有吉美恵子（昭36）

平成9年7月横浜を離れて以来、初めて会う同期生も、あと2～3年で70歳を迎えようとしている。20歳そこそこの頃には想像する事すらできなかった年齢だったのに、なってみれば何のことはない。途中経過がどうであれ、まだまだ若いつもり。退職後も年に一度は上京しているのに、相変わらず人雑みの多さと変化のはげしいビル街にはついていけない。30年以上も生活の場としてすごした都会なのに、その分だけ、大分の地にどっぶり根を生やしたのかな？

東京のアクセスの良さは最高。さすが東京。10月6日（日）日本橋コレドビル4階の「皆美」へ。もし、あの時、宇田さんへ電話していなかったら、東京でのスケジュールに同期会への出席は無かつたらうにラッキー。

今回の旅行は、私にとって特別でした。1月末に認知症だった母を送り、やっと24時間自由になったと思った矢先に、私がダウンして入院。2年前の悪夢が再び？ショックでした。幸いに単なる胃潰瘍とわかって安心したものの時間がたつにつれて一人身の気楽さの虫が退院するや否やもそも動き始め、まだ病院と縁が切れてない状態に

もかかわらず、お試し旅行となった次第です。

越中・黒田・酒井・白松さんの男性群と宇田・野崎さんの女性群の顔をみたら、出席しても酒は飲まないと決めていた信念もどこへやら、6か月ぶりに今日解禁。宴席では、今だから話せる学生時代の秘話が飛び出すやら話題の尽きる事を知らず、口も舌も滑らかに動いている様は、まさに遙か彼方に駆け抜けていった学生時代の気分と少しも変わっていない。年月を重ねた分だけ知識も経験も豊かで、時間の過ぎるのも忘れさせられました。最後にドンと大ぶりなおひつが目の前に置かれて何が始まるのかびっくり。これが島根県松江の味・鯛茶漬。普段食べる鯛茶漬と全然違い、ゆで卵を使うのです。イメージがわかないでしょうが、機会がありましたらお召し上がりください。美味しいですよ。

満腹の後にすることは、勿論参加者全員でエクササイズ。日本橋から銀座まで新しく進出してきた高級店等をウインドーショッピング。縁の無いものばかりだけれど、やはり銀座は歩くだけでも夢ははぐくまれる美しい街。立ち寄った喫茶店で季節はずれの陽気に涼をとりそれぞれ家路へ。野

崎さんと黒田さんと私の三人は更に京橋まで。途中ワイナックスに寄ってドイツ白ワインを試飲させていただきご満悦。ワインにうとい私ですら味の違いははっきり理解できたし、それよりも銀座ならではのと思える雰囲気が好きだった。一人別れて、もう一度銀座に引き返ししながら、宴席での会話を思い出していた。

現役の頃はほとんど病気もせず健康保険を利用することがなかったのに、62歳を過ぎてから、申

し訳無いほど消費した経験から「残りの人生はお釣の人生だ」と言った私に「これからが楽しい人生の始まり」と皆に反論された。言葉って面白いですね。後者の方には投げやりに聞こえる所が無い。一線を離れ、フルタイムで働かなくなっただけから見えてくるものが多いのかもしれないね。これからは楽しい人生の始まりと行きましょう。また東京の同期生にエネルギーをもらいに行きますよ。

近況だより

廣島須美子（昭36）

長かった夏のような暑さから開放され、やっと私の好きな秋が訪れました。近くにある室見河畔を犬と散歩しながら、高く、澄んだ秋空と心地よく吹く風に生きているささやかな幸せを感じます。

今、博多の町は「福岡ソフトバンクホークス」の敗退でがっかりしたようなムードが漂っています。昨年に続いての連敗なので、無理も無いことでしょう。

今年3月には、全く予想さえしない福岡沖地震を経験しました。大きな災害にはなりませんでしたが、しばらくその心身の後遺症が残った人たちがかなりいたようです。今なお、820人(267所帯)の人たちが避難生活を送っています。

相次ぐ世界の自然災害で、避難に合った大勢の人たちの惨状を見るたびに、怒りと悲しさを覚えます。「今、地球はどうなっているのだろう」「戦争などしているときではない」「早く環境や貧困問題に取り組まなくては…」と思うのです。

実は、2000年2月7日私は自宅で心臓発作を起こし、もう少しであの世に行くところでした。意識がなくなる前に「このまま死ぬのかな？でもまだ死ねない」と言っていたような気がします。その祈りが通じたのか、1時間近くたって意識が回復しました。

検査の結果「大動脈弁狭窄症」という弁膜症だということがわかりました。症状が酷くならないと表に出ないそうで、心臓発作を起こしたときに3割は死亡する確率だそうです。

検査入院をした後2ヶ月余り待って、弁置換の手術が終わり退院したのは7月でした。暑さと長い間の心身の疲れから、思いのほか回復するのに時間がかかりました。

10月に福岡で大学のクラス会がありました。地元でありながら何のお世話もすることなく、当日出席するだけで精一杯でした。生かされ、同級生に会えることができ感激しました。又、私の病氣回復に皆、心から喜んでくれました。いくつになっても、青春時代を共にすごした友の再会は楽しいものです。

その後、死の寸前から助けられて、何か宿題を持ち帰ってきた気がしてなりません。「何だろう？」と自問自答する日々が続きました。

ある日、「人は誰でも自分の人生の物語の一つは書ける」という言葉が心の奥の方から、ぼんと浮かび上がってきました。もともとその言葉が好きだったし、そう信じていました。

「私も自分の物語を書いてみようかな」と思い始め、パソコンの前に座りました。私の人生で一番ショックを受けたことから、書き始めることにしました。

それは、私が5歳のときに3歳の弟が疫病で一晩のうちに亡くなったことでした。今まで、原稿用紙5枚以上書いたことが無いのに、なぜか次々に懐かしい思い出があふれるように湧きあがって文章にしました。

後で読み返すと、さすがに書き慣れていないの

で、自分なりの癖のある文章でした。でも下手ながら自分の思いは伝えられたので、そのまま「心のおもむくまま」に書き続けました。最後は疲れ果てた感じで未完で終わりました。

とにかく一冊の本にまとめ上げることが出来、私や家族の身の回りの人に読んでもらいました。

いろんな批評をしてもらい、とても参考になりました。その中で「続きを書いて欲しい」という

要望があり、これに答えたいと再び書き始め今年、2年ぶりにやっと書き終えることが出来ました。タイトルは「希望の灯を求め続けて」で、戦前から戦後の60年の自分史になりました。

とりあえず、あの世の一步手前で持ち帰った宿題を果たしたような気がしています。残された人生はおまけの命なので、前向きに明るく生きていこうと思っています。

のんで、たべて、しゃべった3日間

池田 修一（昭37）

昭和37年卒業の私達は数年前から、全国の都市を持ち回りで同期の集いを開いている。今年は昨年の奈良に続いて鹿児島での開催となった。

（10月8日）新装なったJR鹿児島中央駅に20名が集合。（男子16名、女子4名）みんな元気な顔である。貸切バスが知覧に向かって走り出す。知覧武家屋敷を訪ね、その後知覧特攻基地記念館で若くして散った英霊を偲ぶ。

それぞれの感慨をもちながらバスは指宿屈指の宿『白水館』に向かう。夕闇の中、松林をぬけて玄関へ。待望の砂風呂の後はビールの乾盃。早速近況報告に入るが、みな、アルコールのピッチが早い。各人の声が届かない程のはしゃぎよう。60歳台が20歳台に戻った表情がまた捨てがたい。二次会の座敷では議論を始める者あり、家庭事情を話す者あり。碁、将棋に興じる者あり、何十年前の下宿生活が再現され、焼酎の在庫が底をつく。

（翌9日）大快晴。波静かな錦江湾に音もなく太

陽が上がる。朝食後、フラワーパークを散策、長崎鼻へ。右手に薩摩富士といわれる開聞岳がくっきりと浮かぶ。山麓公園で眺望を楽しんでから早目の昼食。「唐仏峡」のソーメン流し。竹の筒を落ちてくるソーメン流しを想像していた人達は丸い回転式のソーメン流し器でびっくり。冷水の中を泳ぐソーメン、鱒の塩焼き、鯉こく、にぎり飯などで、大いなる食欲をみせる。

香料園で生薬の授業を想いだし、池田湖を経て中央駅へ。ここで半数が別れ、居残り組は夜、黒豚シャブシャブと焼酎で怪気炎を上げる。天文館まで繰り出して、スナックへ乱入。薩摩切子のグラスで焼酎、焼酎、又焼酎。

（翌10日）残った、少人数でジャンボタクシーを借り切ってフェリーで桜島へ。海風が全身に心地よい。展望台では桜島の熔岩の迫力に圧倒され、遠く霧島連山、開聞岳を望む。絶景かな、である。市内に戻り城山公園、西郷南洲ゆかりの地を2、



3訪ねる。西郷さんの墓地である南洲神社ではメンバーの一人が当時の軍服を着て記念写真を撮るというおまけまでついた。昼はやっぱり鹿児島黒豚ラーメン。こってり味でフーッ。

飲み、食べ、しゃべりながら。こいつ学生時代

と変らんなぁと思ったり、60歳台とは思えない元気に敬服。これじゃあ、しばらく元気で再会できそうだ。と肩をたたきあいながら3日間の旅を終えた次第。

昭和40年卒岐阜でクラス会

山縣 佳子（昭40）

「おもしろうて やがて哀しき 鵜飼いかな」

芭蕉

3年ぶりのクラス会を2005年8月6日岐阜長良川河畔ホテル「十八楼」でもちました。前回、「次は日本の中央で行おう」という事でした。岐阜にいる2名があれこれ考えた末に、暑い盛りですが鵜飼いと花火をセットしてみようということになりました。当日は16名（男6名、女10名）の参加でした。当日は近隣からの花火見学で混雑することもあり、少し早めに来ていただいたので、夕方までの時間に金華山公園の辺りを散策していただきました。夕方6時に貸し切り船に乗船し、川風を受けながら乾杯、夕食をしながら宵闇を待ちました。花火の打ち上げを知らせる合図とともに宵が迫り、鵜飼い船が漁り火をつけながら鵜飼いを

披露。そして夜空に次々と花火が上がり、船からの眺めを堪能しました。船を下りてから部屋に集合してまた飲み交わしながら互いの近況を報告しました。

前回と異なり、一応退職した人が大半で、再就職後の生活や余暇の楽しみ方など、ゆったりした気持ちで聞くことができました。まだ調剤薬局でフルに働いてる人、パートで働いている人もおり、それぞれが生き生きしているのが嬉しい限りでした。翌日はロープウェイで金華山山頂に行き、稲葉城から木曾三川や美濃平野を眺めたのち、斎藤道三、織田信長の菩提寺を訪ねました。豆腐ずくしの昼食を皆で会食、3年後には山口の方でしたらどうかということになりました。また元気で楽しい報告をもって集まりたいものです。



41年卒クラス会と熊野古道・奥駈け体験記

早崎 義信 (昭41)

卒業後40年目のクラス会が7月16日に大阪の「東急ホテル」で行われました。会員41名中22名が出席。卒業後初めて会う同級生もいて、一瞬「誰だったかな?」と思い出せないが、直ぐに昔の懐かしい顔が浮かんで学生時代にタイムスリップ。「元気なうちに残された人生を楽しもう。」と言う事で来年も日光で開催する事になりました。

クラス会終了後は京都の祇園祭などを見学に行くグループもいましたが、私は熊野的那智の滝を訪ねました。というのは昨年、四国八十八箇所を44日かけて歩いた事もあって、四国遍路のルーツが吉野・熊野地方の山伏の修験道にあり何か情報が得られるかもしれないとの思いからでした。

那智の滝にある青岸渡寺の宿坊に泊まった際、「奥駈け」を自ら実践しておられる高木副住職にお会いし「熊野修験・秋峰入り計画書」と簡単な説明をして頂きました。

(熊野大峰奥駈修行は、今からおよそ1300年前「役行者」が開いたもので、修験道における最高修行である。山中を歩いて雑念を払い、山の靈気に打たれて心身の修練を積むものである。奥駈道が昨年7月に世界遺産に登録された。)

自宅の大村に帰ってから「熊野修験の森：宇江敏勝著」の奥駈け体験記を読み、険しい山道を自分の体力・脚力で歩き通せるか若干の不安はありましたが、クラス会で増井君から「早崎はやるよ。」と煽られながらボンと背中を押された事もあり、挑戦してみることにしました。それから毎日のジョギングを日課として準備しました。

9月9日。集合場所は奈良県十津川村。参加者は約70名。山伏姿の副住職が「修行の一環であることを忘れず、事故がないように完歩してください。」と挨拶のあと、10人位の山伏が吹くホラ貝を合図に一般参加者も出発。途中「塵チリ」と言われる神聖な場所では勤行が行われ、副住職が腰を沈めて腕を大きく回しながら気合を発して九字を切る。「臨リン！兵ヒョウ！闘トウ！者シヤ！皆カイ！陣ジン！列レツ！在ザイ！前ゼン！」。それから全員で般若心経などを唱えてホラ貝で締めくり先へ進む。隊列が整う場所では点呼があり人数を確認。険しい上り坂になると山伏の先達の「六根清浄ろくこんしょうじょう」の掛け声にあわせて他の者は「懺悔ざんげ、懺悔ざんげ」の大合唱。山小屋で泊まる。

9月10日。早朝、ご来光を拝んだ後、副住職の僧侶らしい説法のあと出発。雲海が見え、眺めが



増井 松本 沖川 安田 藤沢 平山 伊豫屋 早崎 大坪 小松 中村 小野
原田 渡邊 織田 貝島 井田 池淵 山下 河本 太田 黒田

良い。途中、女人禁制を前にして女性群は山を降りる。泊まりは桜本坊。狭い風呂で2日分の汗を流す。

9月11日。雲海の上に朝日で浮かび上がった富士山の姿にしばし見とれる。「西の靨」では私も「捨身の行」を体験する。肩から胴体にかけて太い綱をかけられ頭のほうから断崖絶壁に差し込まれる。「親に孝行するか」「奥さんを大事にするか」と詰問され、「はい」と答えざるを得ない。終点の吉野

市街に近づく頃は足の痛みは限界に近いが「無言の行」をしながら何とかこらえて金峰山修験の総本山蔵王堂に無事に着く。

修験者の言葉に「山の修行より、里の修行」と言う言葉があるそうだ。今回、このように日常生活では味わえない貴重な経験をしましたが、家に帰ってからの日頃の行いが大切ということでしょう。

イタリア・シチリア島パレルモでの国際学会に参加して

富永 義則 (昭44)

今回の第21回国際複素環化学会議はシチリア洲パレルモ市サン・パウロ・パレスホテルでパレルモ大学レミーレ教授実行委員長のもとで開催された。まずパレルモ市の事から紹介しておこう。

シチリア島パレルモ市

パレルモ市はシチリア島の中心都市で、フィレンツェを10コ集めた価値ある町といわれ、ゲートも「世界で最も美しいイスラムの都市」と讃えている、そんな町がパレルモです。シチリア島は長靴のつま先に位置し、地中海で最も大きな島です。日本人にはエトナ火山(3340m)が知られている。映画ゴッドファーザーの舞台でもありマフィアの町としての方がよく知られているかも知れない。事実13年前マフィア裁判で担当の検事が橋ごと爆破され命を落としている。パレルモ空港の近くにあるその現場には、その事件を忘れないようにと茶色の記念のモニュメントが建っている。他にもある。マフィアの醜さが消えるまで茶色のモニュメントのままだという。地中海の要衝であったため、様々な民族の支配を受けてきたこの島には、ギリシャ、ローマ、ビザンチン、アラブ、ノルマン、ドイツ、フランス、スペインなどの文化的影響を受けた遺跡があちこちに見られる。それらがシチリア島全体に、またパレルモ市等の都市に混然としている。

パレルモ空港には7月30日の現地時間で22時頃着いた。ホテルに着いたのは翌日31日になってい

たのではないだろうか。31日は夕方の学会参加の受付と前夜祭まで自由時間となっている。一日の市内観光に出かける事にした。ホテルから町の中心まではバスを利用した方が便利と聞き、バスで行く事にした。バスのチケットは普通たばこ販売店で売っている。オーストリアのウィーンでもそうだった事が思い出された。バスで10分ぐらいで町の南側にあるパレルモの中央駅に着いた。ここからどの方向に行くか迷ってしまう。先ず「4つの辻」を意味するクアットロ・カンテイ、ここはマクエダ通りとエマヌエーレ通りの交差する角で、交差する4つ角のそれぞれの建物はそれぞれが向き合った形で、それぞれの面はスペイン・バロック様式の彫刻で飾られている。これらのビルや彫刻は古く黒ずんでいるためその芸術性がピンとこない。いたるところに彫刻が見られる。近くに16世紀のトスカーナの彫刻家によって造られた豪華な噴水と30近くの彫像からなるプレトリア広場がある。彫像がヌードであるため「恥じの広場」ともいわれているらしいが、この方が先のクアットロ・カンテイの彫刻よりも心に響く。

パレルモ市は人口66万人位だと聞いた。町は雑然とし、道は狭く、埃っぽい、道路の両端には所狭しと車が駐車している。それぞれ個人が駐車場の許可を必要とせず、路上駐車が認められているためや長い歴史のために道路が狭い。路上駐車のためさらに狭くなっている。しかし車は多い。バス等の公共の車は通路が確保されているが、普通

の車は一方通行になっている。路上のそれぞれの駐車間隔は狭く日本での縦列駐車が出来るような間隔ではない。どのようにして駐車するのか、案内人に聞いたところ、前の車を前のバンパーで押し、後ろは後ろのバンパーで押して場所を確保するらしい。出る時も同じでそれぞれバンパーで押して出られるようにスペースを確保する。この事を観光バスで経験する事になった。ある町に観光バスで行って、駐車場から出る時横の車が邪魔になって出られない。何回かハンドルでの切り返しをしてバスを斜にして、出ようとしてバックした時、ゴツンと車に当たった。あっ、事故だと思った。しかし、バスはそのままバックし続け、その乗用車を段差のある歩道に押し上げてしまった。それで悠々と駐車場を後にした。乗客から拍手が沸き起こる。相当傷が付いたと思って後でバスを確認してみたが、バスの後ろのバンパーには乗用車の赤色の塗料が一部付着しているだけであった。また、車は町中をかなりのスピードで走る。バスのスピードも凄い。事故が起きても当然のような気がする。パレルモの市街を出る時も乗用車とクラッシュ、それでも10分くらいの話し合いで済んでしまう。

町の中心は、アラブ人が造り、ノルマン人が手を加えたノルマン宮殿や12世紀末建築のシチリア・ノルマン様式の大きな教会カテドラーレを中心に歴史的遺跡が混然としている。パレルモ駅を中心に2〜3km²の範囲に中世時代の建物から現代的ビルディングまでそこにある。古い遺跡は今でも貴族が生活の場としているらしい。外からはとても貴族が住んでいる雰囲気は感じられないが、中はそれなりの調度品を備えた生活が営まれているという。一方裏通りには石造りの、半分壊れたような建物があり、そこに洗濯物が干してあり、生活の匂いがする。全体的にウィーンのようなリズムは感じられないが、それなりに古さと新しさが調和しているような気にもなる。このような町も夜にはそれぞれの通りが色鮮やかなイルミネーションのアーケードとなる。神戸のルミナリエの原形がここにある。これが1年中続いている。

町には観光案内の馬車がある。思い出の一つにと馬車に乗る事にした。そこには3台の馬車があった。最初40ユーロだというので高いと思い、

止める事にした。するとどうだろう。35ユーロで良いという。それも断り歩いて観光する事にした。歩き出して暫くすると後ろから馬車ごと追っかけてくる。そして25ユーロにするから乗らないかという。そんなに悪い感じもしなかったのでノルマン宮殿まで1.5km乗車、乗り心地はそれなりに快適であった。なにせ石造りの家とビルに挟まれた狭い路地とこの炎天下の気温は35〜36°C位ある。あいにくこの日、宮殿は閉館中で中を見る事はできず、一回りして簡単に観光は終わってしまった。観光案内書によると近くにノミ市場があるらしいのでそこまで行ってもらった。しかし店はどこも閉じたまま。それに乗車賃30ユーロ追加要求されてしまい、色々言っても英語は通じない。これくらいはサービスの内と勝手に思い込んだのが間違いでそんなに甘くはない。根負けして支払い、さらにそこから元の場所まで歩いて戻る事になってしまった。

近くには2ヶ所のオペラハウスがある。そのうち1ヶ所は会議のオープニングセレモニーが開かれる所で、夕方はここに来る事になっている。それまで未だ時間があるので美術館に行く事にした。観光案内の地図を頼りにいくら捜しても見つからない。たまたま通りかかった人が英語を話せる人で、やっと見つけることができた。その近くまでは何回か来ていたが、路地の中に入り込む事ができずにいた。途中案内の看板やポスターらしきものは全くない。まわりは古い石造りかレンガ造りの建物で美術館も古い石造りの城（アバテッリス宮殿、15世紀）がそのまま利用されているらしい。展示品はヨーロッパの美術館がそうであるように、キリスト教を中心とする宗教画が中心で、その中で印象に残ったのが青色の鮮やかな色で描かれたそれほど大きくないアントネッロ・ダ・メッシーナのキリスト「受胎告知」の絵であった。

シチリア島には2つの空港、それに鉄道が整備され、ミラノやローマ等の大都市からはこれらを利用するのが良さそう。また船も利用できるとの事。観光には、高速道路が島全体に整備されているためバスがよい。また市の中心部への交通機関はやはりバスで、バスの切符はウィーンと同じでタバコ屋に1.5ユーロで売ってある。1時間内であればこの1枚の切符で乗り降り自由で、しかもど

こで乗ってもよい。見たところだれも時間のスタンプを押していないし、だれも切符を運転手に見せている様子もない。時々チェックが入るらしい。

塩田の町トラパーニと天空の町エリチェ

パレルモでの2日目、シチリア島の北西部に位置するトラパーニに行く事になった。シチリア州都パレルモ市のサン・パレルモ・プレスホテルから2時間近くバスに乗っていくと、昔ながらの天日による製塩が行われているトラパーニに着いた。パレルモから高速道路利用で空港と岩山の間を通り抜けて島の西の端まで行く。途中山の麓には街の中とはちょっと違う一戸建ての家が並んでいる。それぞれ個人の別荘らしい。今は夏、家族はこの別荘で過ごし、御主人だけが街で働き、週末に戻る生活が一般的だ、とガイドの説明だった。海岸線を通り過ぎ島の内陸部へ入ると、見渡す限り白ワインの原料のブドウの畑が一面に広がる。ここだけを見ていると、とても島の中とは思えない。ハンガリーの大平原を思わせる。よく見ると背丈程の青々としたブドウの木には実がなっている。この島は非常に雨が少なく、特に7月、8月はほとんど降らない乾燥地帯らしい。この乾燥の中、ブドウの木も他の木々も緑鮮やかなのが不思議な感じがする。山々は高くなればなる程岩山と化している。ローマ帝国の穀倉地帯の歴史から、開発され続け砂漠化していったとも言われている。今でも、イタリアの重要な穀倉地帯になっている事に違いはない。質の良いスパゲッティやパスタの原料の小麦はここで生産されている。

今日(8月6日)のトラパーニは34~35°Cの真夏日ではあるが、霞が掛かったようでカラッとした青空ではない。遠くの景色がハッキリしないのが残念であった。2時間位で塩田が見えてきたが、それほど大きい感じはしない。塩田には塩水が満ち満ちている。しかし透明の澄み切った塩水ではない。塩田に近づくと、イメージしていた白砂とは違い土色、それに空き缶やオモチャが投げ込まれている。塩水も何か濁っている気がする。塩水を舐めてみても、そんなに塩からい感じはしなかった。また一部結晶化している塩を取って舐めてみても舌にピリピリする塩辛さはなく、柔らかいというか、甘くさえも感じられる。あちこちに

高さ2~3mで、雨水で溶けないように瓦で被われた塩の小山がある。一部には剥き出しになっている塩山も所々にある。しかし一部は白い小山ではない。なにかピンク色にみえる。これは真新しい塩山のため残っている微生物の色で、時間が経つにつれて白くなっていくそうだ。この濃縮された塩水に微生物が生きているのが不思議である。塩田にはあちこち風車がある。石の台だけで風車がない所もある。もちろんこの風車で風を送りより速く乾燥させるためである。しかし昔程盛んでなく廃業に追い込まれた塩田もあるという。それは石の台だけの風車跡として残っている。このような製法で塩が造られているのが不思議ではあるが、ここに来てみるとそういう雰囲気ではなく、ごく自然のようだ。

ここから2~3km北西部に750m位の高さの岩山があり、その頂上にエリチョという中世から続いている人口3000人の町があるという。そこに行く事になった。バスで曲がりくねった道路を30分かけて上っていったところに駐車所がある。ここまでくるとそれなりの広さがあり、小さな森もある。この駐車所から上の方が町になっている。岩山の頂上に人が住んでいること自体が不思議なのに、一つの町があることに驚きである。ギリシャ時代からローマ時代を経て中世に現在の町となるエリチェができた、案内者から説明をうけた。城壁の門にはスペインのハプスブルグ家の鷲の紋章がある。一時は牢獄として利用された事もあるという。今の真夏日からは想像できないが、冬になると囚人は凍死していく程寒い過酷な環境となるそうだ。この城の中に入っていくとそこから地中海が一望できる。この日は先ほども触れたように霞が掛かっているようで、遠くまでは見通しが効かないが、山の麓、海岸線、それに下のぶどう畑の眺めは素晴らしい。もとは女神の山と言われたそうで、そのいわれは知らないが何となく分かるような気もする。さぞここからの朝日、夕日は絶品だろう。

この山頂の町の建物はほとんど中世のままで、今もそこで生活が営まれている。今の収入こそ観光だろうが、昔は生活を何に頼っていたのだろう。町の石畳は時代を思わせる。ドイツやスペインでみた石の板でなく、自然石を縦に埋め込んだ方式

になっている。一個の石の幅はそれほど大きくなり、石の表面は磨かれたようにつるつるして滑りやすく歩きにくい。昼近くになると町の中央の小さな広場にはどこからとなく人が湧いてきて観光客で一杯になる。この広場のレストランで軽い昼食を済ませお土産店を廻って歩いた。ドイツのロマンス街道にある城壁の町を思い起こさせるような町並みであった。シチリア島に来て良かったと思う場所の一つになった。

セリヌンテのギリシャ神殿

古代ギリシャの神殿跡で有名なアグリジェントとは別に、アグリジェントの西部、テルモアの南に位置するセリヌンテにも巨大な神殿跡と古代都市の遺跡がある。紀元前8世紀頃からシチリア島沿岸にギリシャの植民地の都市が建設され、その時代の神殿や都市跡がある。アグリジェントにはギリシャのパルテノン神殿に次いで完全な神殿が保存されていると言う。

パレルモからバスで2時間くらい南に行くとセリヌンテに着いた。ここも観光客で一杯であった。遺跡のまわりは小高い土の土手で囲まれている。その中に入ると、500m位前方に予期もしなかった、これまで写真で見ただけで実物は見た事がない、あのギリシャのパルテノン神殿を思わせる巨大な神殿が見えた。何も考える事はない、自然に足はその方向へと急ぐ。ただ凄いと思っただけであった。

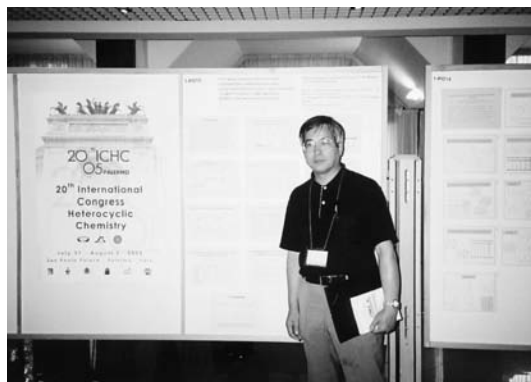
第21回国際複素環化学会議

この会議に最初に参加したのが1973年、仙台の故亀谷哲治教授が実行委員長となって開催された



第3回大会であった。それ以来30年以上、この学会に参与し、できる限り参加するようにしている。今回はヨーロッパ観光の目玉でもあるイタリア、シチリア島での開催であるため多くの参加が期待された。しかし前々回のウイーンでの開催に比べて国際的な参加国の広がりを感じられるが、日本からの参加は50人前後と非常に少なく思われた。日本の研究者の研究レベルは非常に高いと思われるが、日本独特の研究が少ないと思ったのは私だけであろうか。科学のグローバル化が進んでいるためであろうか、何か特徴がない。かつてはN-オキシド、ピリミジン、ピリダジン、インドール、キノリン、イソキノリン、インドリジン等々日本が指導的役割を果たしてきた化学があったが、現在日本の特徴となる複素環化合物がないのが気になる。ピリミジンならだれだれ、インドールならだれ、という具合にそれぞれの複素環化学にはそれぞれ中心となる研究者がいた。

現在程、化合物の持っている潜在的な様々の機能性が注目されている時はない。それぞれの複素環化合物にはそれぞれ異なった性質があり、様々の機能性を秘めている。それ故複素環化学はあらゆる分野で、特に電子材料分野で基礎化学から応用分野まで、幅広く研究されている。またこれまでは、アメリカ、ヨーロッパ、それに日本がこれら研究の中心であったが、現在では韓国、台湾、中国、インド、エジプト等のアフリカ諸国、それに東ヨーロッパ諸国へと、その研究地域は世界中に広がりを見せている。それを実感できたのが今回のイタリアでの第21回大会であった。次回は2007年7月オーストラリア・シドニー市での開催の予定です。



昭和47年卒業生便り

松本 逸郎 (昭47)

同窓会報には同学年の卒業生だけでなく、その前後の卒業生諸氏の消息について知る楽しさもあります。そのことで遙か昔の青春時代を思い出し、また新たな気持ちになることも事実です。そこで『近況報告依頼』の好機に10名近くの同級生に次のようなコメントをつけて報告を寄せてくれるよう提案しました。 1. 近況報告を通してクラスの

交流ができないものか？ 2. 集まった近況便りでミニ会報47度版ができないか？（原稿が集まりすぎたら別冊としてもいいと思いますが？） 3. 数年間で全員がリレーして継ぐなどもいいかあ！とありますが？ ということに寄せられた中から『47年度卒業生近況便り』は山田有一氏と松本からの二つの報告を寄稿します。

私 の 健 康 法

山田 有一 (昭47)

卒業して早34年が過ぎようとしています、皆さんお元気で過ごしの事と思います。今回松本逸郎くんから近況を書いて欲しいとの依頼がありましたので、現在、生活習慣病の代表である糖尿病に関係のある製薬企業に勤務している関係上、「私の健康法」について書いてみようと思います。

私が自分の健康について不安を感じたのは今から26年程前京都に勤務していた頃です。不摂生な食生活の結果、体重は82kg（学生時代は57kg前後だったと思います）で、毎年カッターシャツの首回りとウエストが広がりW90cm近くまでなっていたと思います。病院の階段を上ると少し息切れがし、ゴルフも1ラウンド回ると膝が痛くなる様な状況でした。でも年齢的にも若く体力には自信がありました。夏のある休日、京都市郊外の愛宕山に登山に出かけました。900m前後の低い山ですが、結果はさんざん、息は切れるは、膝は痛くなるは、8合目ぐらいでダウンしてしまい体力の衰えに愕然としました。翌年金沢へ転勤となり犀川の麓に住む事になりました。幸い川に沿ってジョギングのコースがあり、初夏の休日に何となく走ってみたい衝動にかられ、走ったのがジョギングの第一歩でした。最初は激しい狭心痛が肩から走りほんの300m程しか走れませんでした、少しずつ距離を伸ばして行き2週間後には1km、1か

月後には3km程走れる様になりました。ジョギングを始めると同時に減量も始め、冬を迎える頃には75kg前後に体重を落とす事ができました。それからは雪の時期を除いて毎日3km走る事が日課になり、途中から家内も一緒に走る様になりました。

その後転勤しても近くにジョギングコースがある所に住む様にし（福岡では大濠公園、東京では埼玉の航空公園、都内の世田谷公園の近く）、現在は神戸市の東灘区に住んでいますが、芦屋浜（4km）六甲アイランド（5km）住吉川（4.5km）のコースが近くにあります。朝（夏4：30～冬6：30）に5kmを基本に年間150～200日を目標に走っています。また海外旅行をする時も必ずジョギングウェアとシューズは持参する様にしています。近郊の市町村で開催されるマラソン大会にも夫婦で毎年5～8回は参加する様にしています。本年度の目標は200日－10000mで、200日のジョギングと1万メートルの登山を目指していますが、登山の方がすこし厳しい状況になっています。

御蔭様で定期健康診断でもさして悪い所もなく（体重73kg, BMI23.3）、体力的にも40歳前半は維持できているのではないかと思います（10kmの本年度最高タイムは49分22秒です）。また睡眠も短時間熟睡型に変わり、どこでも、ほんの5分間程で眠りに着く事ができる様になりました。またス

トレス解消には最良の方法で、朝ジョギングをした方がその日1日の仕事も充実している様に思います（現在の私の至福の時は、マラソン大会で走り終えた後温泉に浸っている時です）。今年でかれこれ25年程ジョギングを続けていますが（地震の後、怪我の為に2年間走れない時期がありました）、長く続けるコツは、①環境のよい場所で四季の変化を楽しみながら走る事 ②目標を持つ事（タイム、日数、大会への参加等）ではないかと思えます。

現在平成14年の国民栄養調査の結果、糖尿病が強く疑われる方は740万、疑いがある方は880万、合計1620万の方が糖尿病と関係していると言われています。また最近ではメタボリックシンドロームの診断基準も作成され、生活習慣病についての関心が高まっていますが、元気に高齢時代を迎える為にも、生活の中に運動を取り入れる事が大切ではないかと思えます。

何か皆さんが運動を始められるきっかけになればと思筆を取りました。

金 山 銀 山

松本 逸郎（昭47）

数年前にひょんなことから卒後25年目にして薬剤師免許証を頂きました。その顛末についてお話しします。それはある筋からの話で、市内の美容学校で消毒学の非常勤講師にとの話だったのです。「私の専門は生理学なんですが？」の問いに美容院の監督官庁は薬務課だということです。それで「非常勤は薬剤師免許保有者が良いというのです」「ん？」「あなた薬学部でしょう！」「そうですが免許証は持っていません」「はあ？ペーパードライバーですか！」「いやペーパーはまだなんです。実技試験も。でも申請すればもらえるのです。いや貰えると思います。きっと！」「大丈夫でしょうね！」「たぶん。いやちょっと問題が！」「まだ何か？」「申請料が〇〇円程かかるのですが…」「ではそれも含めて出してもらいましょうか！学校から！」「うん！うん!!。そんならよか！」ということで県の薬務課に行きましたところ、村岡 繁氏（昭47）がおりまして「なんしたと？」「いや！会社ば首になったとじゃなかとよ！実はこれこれ…」「あっ、そう！そんならこれこれを用意して…」と無事に実技試験も通過してめでたく免許証を頂きました。

付け刃でしたが、細菌学、微生物学、ウイルス学、消毒法、衛生学等々を短期間に詰め込みました。たっぷりとは言えないまでもそこそこに仕上げた講義第一日目に来ました。職員室で校長先生に挨拶かたがた「私みたいな人間には美容院は無

縁（頭髪はほとんど後退したため美容院にも理容院にも20年来行っていない）なのですが、せっかくのご縁なので一生懸命に頑張りますので！」と言うと、「いえ、いえ！とんでもないです」（何かとんでもないのか意味不明でしたが多少少しでも髪の毛が残っていればお客さんになるの意味か？）との返事。その言葉に背中を押され教壇に立ちました（颯爽と行きたかったのですが寄る年波に勝てず、多少もたもたしていたかもしれませぬ）。

そしてゆっくりと教室内を見渡すと、なんと教室は金山・銀山のオンパレードではないか！金山・銀山は中国盆のお飾りですが、ここでは男女半々程度にいる生徒のおつむが全て金銀で光り輝いているのです。目は点に。落ち着いてよく見ると緑あり、紫あり、白に赤にピンクに綾錦。まるで錦秋の山ではないか。絶句！その間約10秒あまりか。いやわずか3秒くらいだったかも。ショックがそれだけ大きかったためか、始める前にもう帰りたいもの。しかしよく考えてみるときょう日、髪の毛はケガしないための防護のためにあるのではなくて飾るためにあるようになって久しいのです。目から鱗が落ちるとはこのことでした。一瞬のショックから立ち直り開口一番皮肉を効かせたつもりで「西洋人はクロに染め、緑の黒髪も何のその！日本人は金銀に染めるのがファッションというものと初めて理解した…」と

ショックから立ち直れないまま取り留めもなく、私にとって本来髪の毛の話は禁句になっていたはずなのに、不本意にも長々と髪の毛についてしゃべってしまいました。それで肝腎の講義の前に話を詰めて置くべき立て替えていた申請料金のことを言い忘れて、結局もらい損ねてしまいました。しまった！と思いましたがまあ当然と言えば当然のことで厚かましい話でした。

その後非常勤は後進に譲り、免許証はタンスの隅に眠ったままで活躍する機会は今までありませ

ん。そのうちにお声が掛かり、鱗の落ちるような出会いが起こることを楽しみにしています。しかしその時に勉強したお陰で腸内グラム陰性菌由来の毒素リポポリサッカライド（LPS）による炎症反応と内臓求心性神経の役割について、最近おもしろい発見をしましたのであながち無駄になったわけでもないなあと思っている今日この頃です。実験結果がうまくまとまりましたら金山銀山 part 2 として発表できるかもしれません。乞うご期待。

49年卒(含45年入学)同窓会

立花 剛一（昭49）

2年に一度の同窓会、今回は道後温泉で10月9日に開催しました。山手の会場から5分歩けば道後温泉本館、通称坊ちゃん湯、違った坂を降りれば5分ほどで子規記念博物館、文学壮年でない我々には、ただただ風呂に浸かり、美味しいものを食べ、おしゃべりだけが楽しみ??…でない人もいたかも知れません。

午後6時半に会が始まりあちら、こちらで話の弾むこと。歳は重ねども、30年前のあの横顔、あ

の立ち振る舞い、あの話し方、DNAのなせる技か?おかしくもあり、懐かしくもあり最高の時が流れていきました。

一人一人の近況報告で分かったことがあります。仲間同志でこの同窓会を利用して小旅行をしている人、夫婦で石鎚山に登る人、家族で四国を探索する人、思い思いの同窓会でした。

一次会の終わりにみんなで写真を撮りました。歳は重ねるもの風貌は変わるもの……。



(4列) 藤山, 立川, 大平, 岡本, 灘, 馬場, 堅田, 山口
(3列) 古後, 近藤, 酒井, 竹川, 浅野, 黄, 祖田, 橋本, 原田
(2列) 高石, 岩国, 森, 今村, 売豆紀, 野中, 石橋, 穴吹, 上ノ段
(前列) 渡辺, 本多, 高祖, 嘉本, 方, 立花

我々の同窓会の二次会は、いつの頃からか宿の大きい一部屋での、とりとめも無いおしゃべり会、酒は入る、疲れは出る、声は大きくなる、人の話は聞かない、ここで当地、松山らしく一句 “同窓会秋の虫より騒がしい”

このような状態で12時になっても終わる様子が無いので解散の大声でお開きにしました。

翌朝は酒臭い人、精気をなくした人、いまだ疲れを知らない人それぞれの顔がありました。

朝9時に2年後の大阪での再会を約束して別れました。

2年に一度の同窓会、楽しい思い出として残る“時”を過ごせたのではないかと思います。

昭和50年卒同窓会を終えて、そして次回開催地、長崎に向けての発信

緒方 信明 (昭50)

同窓会現地実行委員会代表

7月17日、卒後30年を祝しての同窓会を福岡市にて行いました。5年前の長崎での同窓会で、次は「福岡」と決めてから、あっという間に時が過ぎました。

さて、場所は季節が夏ということもあり、山間にするか、海の近くにするかの二者択一で、結局、JAL リゾートシーホークホテル福岡。何とも長い名前ですが、ついその前の所有者はご存知ダイエーでした。

ホテルは西区の「ももち」にあり、周辺には福岡タワー、ウォーターフロント施設「マリゾン」、博物館などが歩いて行けるところにあります。東方面には船で15分のところに海の中道公園、マリワールド水族館、西方面には能古島などのローケーションに恵まれ、また隣の福岡ドームで野球観戦ができるなど、まさにエンターテイメントに満ち溢れた魅力的なところです。ただ、リゾートホテルということもあり、提示された宿泊料金はやや高めでありましたが、旅行会社の仲介で割安にさせていただきました。額は秘密。

準備は半年前から増田君と私の二人でボチボチと始めました。78名に案内状を出し、最終的に42名という出席の返事をいただきました。その数に至るまでには数名の協力者がいたことは言うまでもありません。薬学科は主に吉村緑さん、製薬化学科は福田君、元野球部には増田君などいろんなつながりで連絡を取り合いました。他に自分たちで声をかけあった方もいらっしゃいました。もちろん私も気になる方には全員に声をかけました。

こうした努力の甲斐あって高い出席率に結びつきほっとしました。30周年ということもあり、みんなにどうしても集まっていた良かったのです。仕事の都合でやむを得ず欠席になった方は非常に残念でした。

問題は企画でした。30年に相応しいもの、せっかく集まってもらうのだから学生当時の写真を紹介していこうと話が決まりました。案内状には学生時代の写真提供をお願いしました。どのくらい集まるのだろうかと心待ちにしていたのですが、残念ながら結果的には坪根みずほさんだけしか提供されませんでした。実はこれも「想定範囲内」に入れておまして、ここからが幹事の腕の見せ所となった訳です。

早速、増田君に相談したところ、運良く増田君が持っていた薬学部卒業アルバムを使って、全員の顔が出るように約50枚のパワーポイントを使った構成で準備しました。

いよいよ当日です。同窓会の世話人の方々には午後5時にシーホークのフロント前に集まっていたいただきました。私がホテルに着いた時には全員が待っていました。下準備を行ってから事前に増田君と打ち合わせておいたシナリオに沿って温品さん、溝上さん、目野さん、石田君、黒崎さん、藤武君含め8名で進行を意思統一し同窓会に臨みました。

開始時刻が近づくとつれ、心待ちにしていた同窓生が次々と会場に到着し、顔を合わせるとすぐに卒業してからの年月を埋めるようにお互いに話

が弾んでいました。このままあっという間に時間が過ぎ同窓会が終わってしまうかのようでした。

19時。いよいよ同窓会本番の幕開けです。開会の挨拶は黒崎さんより行われました。次にこれまでに他界された大久保さん、高石さん、森山くん3名への黙禱を行いました。

しばらく歓談を行った後、さっそく準備していた卒業写真の紹介に移りました。やはり卒業写真は全員に受けました。サークルごとの集合写真を中心に紹介しましたが、30年前の自分を見るのは、誰もが興味あるようでした。名前は伏せますが番外編で結婚式の写真も紹介されました。そうこうするうちに藤武君の閉会の挨拶であっという間に一次会が終わりました。

場所を変え、そのままのメンバーで二次会に移りました。一次会ではあまり話す時間がなかった分、たっぷりと話すことができました。この二次会もあっという間に終わりました。幹事の責任はここまでで、まだ飲み足りないものはホテル最上

階のラウンジで三次会となり、後は石田君に任せました。

さっそく集合写真をプリントし、欠席された方にも送りました。数名の方からは感謝のしがきをいただき、様変わりした風貌に「顔と名前が一致しないので名前をつけてくれ」などの注文や、「写真を眺めて次回はかならず出席したいという思いに駆られたよ」と手紙を届けてくれた方もいました。

今回は、東京でという話もありましたが、とりあえず次回は長崎開催に戻しました。場所はハウステンボスという声もありますが、変化した長崎をみたいという気持ちが強かったからです。

長崎では、みなさん全員元気でお会いできることを楽しみにしたいと思います。

この会の成功のためにご協力いただいた福岡在住の世話人のみなさんには感謝申し上げ、また出席できなかった方にも同窓会の状況が少しでも伝わって欲しいと念じつつこの報告を終わります。※お名前は旧姓で紹介させていただきました。



昭和55年卒同窓会報告

藤山恵津子（昭55）

長崎大学薬学部を卒業してから、早や25年の歳月が流れました。この間、1回目の同窓会が10年目に開催された後、20年目に2回目の開催計画が

あったようですが実現に至らず、卒業後25年目の開催となりました。きっと今回の開催を同窓生の皆さんも心待ちにされていたことと思います。今

回も学生時代を過ごした懐かしい長崎の地で開催の運びとなりました。

平成17年11月12日(土)、長崎駅近くの「料亭坂本屋」に遠くは東京、富山、大阪からも駆けつけていただき、又、3名の先生方(北川常廣先生、三浦博史先生(昭33)、中島憲一郎先生(昭46))のご参加もいただいて、総勢37名(+子供2名)の盛会となりました。翌日のみの参加が1名(製薬化学科の旧姓原さん)ありましたので、同窓会の参加は正確には38名となりました。

卒業後25年ぶりに会う方も多く、前日までは「皆の顔を覚えているかな?名前がすぐにでくるかしらん?」と心配していましたが、そんな不安も顔を合わせた途端にふっとんでしまい、一瞬にして学生時代に戻ったように話がはずみ、本当に楽しい時間を過ごせました。25年経ったとは思えないほど、皆さん「変わっていない!」の感が強く、幹事のほうで名札を用意していましたが、後日、「あまり必要なかったね。」と話したことでした。

時間に限りがあるため、一人1~2分で近況報告を、とのことでしたが、とても数分で話せるものではなく、仕事のこと(特に調剤薬局の方は、薬学6年制に伴う学生実習受入れの準備についてご苦労があるようです)、子供の事、今回は残念ながら出席できなかった方からのメッセージ等々、

いろんな話題が飛び出していました。又、私たちの子供もちょうど大学生・高校生の年代が多く、薬学部在籍あるいは薬学部めざして受験勉強中といった話題もでていたようです。

近況報告の後は、美味しい長崎卓袱料理をいただきながらの談笑、お酒もすすみ、各円卓でドッと笑いが起こったりと、時の経つのも忘れて楽しい時間を過ごしました。

あっという間の一次会が終わり、二次会は場所を宝町のベストウェスタンプレミアホテル最上階のバーに移して、すばらしい長崎の夜景をバックにさらに盛り上がり、楽しく懐かしい長崎の夜が更けていきました。

翌日は、時間に余裕のある方は、大学近辺や稲佐山等、懐かしい場所を散策して各々の時間を過ごした後、帰郷の途につかれました。参加してくださった皆さん、ありがとう!楽しかったですね。今回は参加できなかった皆さん、次回はぜひお会いしたいですね。次の同窓会は、5年後に大阪(川邊君、お願い!)か横浜(浅田君、転勤してなかったらね)で開催しようと話がまとまったようですが・・・?

皆さん、次の再会まで健康に留意され、又楽しいお酒を飲みましょうね!!

以上、S55年卒同窓会報告でした。

昭和57年卒後25周年同窓会予告

高良 真也(昭57)

学部長挨拶等にも書かれておりますように、同窓の中嶋幹郎君が、長崎大学大学院医歯薬総合研究科生命薬科学専攻医療薬学講座教授に就きました。同じ薬剤学の教室だった林田さんの呼び掛けで、近場の?仲間10名程で11月に小宴を催しました。一次会の小洒落た店で、主賓の到着を待たずして飲みはじめた数名は、生まれてから大学入学あるいは卒業までの年月よりも大学を卒業してからの年月の方が長くなった事実で改めて驚く一方で、学生の頃とあまり代わり映えない仲間の姿に安心した次第でした。主賓が到着し記念品の贈呈の後、乾杯となりました。三浦(真茅)君の乾

杯の挨拶にもあったように「かこつけて飲みにきた」わけですが、これで母校を訪ねても顔を出せる教室が後20年程の間は確保できたのは嬉しい限りです。その昔、福岡の中島(窪地)君の家に男数名で泊まった時、夫人も中島君もいない家での朝食の後、食器を洗って片付けて出ていった幹郎君の事なので、きっときれいな教授室で我々を迎えてくれる事でしょう。思い出話、同窓の近況、家庭の話に仕事の話と尽きる事はなく、二次会がお開きになったのは夜中を過ぎてしまい、私は学生時代以来久しぶりに諫早までタクシーで帰る事になってしまいました。あまりにも楽しかったの

と「来年は卒後25周年ではないか」との意見で、来年こそ同窓会を開こうという事になりました。その場では、温泉にでも浸り一泊二日でゆっくりと、という声が強かったようです。池田君には数年来言われ続けながらこれまで実現できませんで

したが、来年（平成18年）には必ず同窓会を開きます。みなさん案内状が参りますまで、ご家族を洗脳しつつしっかりとお小遣いを溜めておいてくださいネ。

芳本忠先生の還暦をお祝いする会

伊藤 潔（昭59）

平成17年7月30日の土曜日、薬品生物工学研究室教授 芳本 忠先生の還暦をお祝いする会が開催されました。芳本先生が生物工学研究室（旧薬品製造工学）の第二代教授にご就任されたのは平成6年。同年5月30日に教授就任祝賀会を催した記憶があり、探したところ記念写真が出てきたので記事に載せてみました。早、11年が経ったこととなりますが、写真から月日が思い起こされますかどうか。

さて、本題の還暦をお祝いする会。場所は、長崎市薬剤師会の会長に就任されたばかりの永田修一先生（院55）のご助言もあり、松亭に決めました。「かんれき」の響きに多少「何とはなしの抵抗」もご本人にはあったかもしれませんが、そこは、飲み事の好きな芳本先生。同門生の憩いの場になればと快諾していただきました。「還暦」をご存知ない諸氏はおられないと思います。筆者の好きな広辞苑によれば「(60年で再び生れた年の干支に還るからいう) 数え年61歳の称」とあります。一般的な還暦の話は各人でお調べいただくとして、長崎の還暦（に限らず祝い事一般）には神社への参拝が付き物（なんです）。ご存知でしたか？

長崎で神社といえば、お諏訪様。ということで、当日は真夏の日差しの中、スーツに身を包んでいただき、奥様ご同伴で諏訪神社へ行って参りました。先生も社殿内に入られるのは初めてとのことで、少々緊張しながら神主さん（宮司さんといった方がよいのか、わかりません）と巫女さんをお待ちし、お神楽を拝観して、還暦のお払いをしていただきました。写真はその時のもので、助手の中嶋先生と中国からの留学生で大学院博士課程1年の徐悦君、早めに到着した村山信浩君（昭61）

（昭和大学薬学部助手）が付き添ってくれました。

前置きが長くなりましたが、いよいよ松亭へ到着して、出席者をお待ちします。大勢が集まってくれました。初代教授の鶴大典先生は熊本から。ありがとうございます。同じく熊本、崇城大学からは初代助手の藤原邦雄教授（昭45）。一番遠くは、北海道から角邦男氏（昭50）にご出席いただき、南は沖縄の兜坂智浩君（平14）まで含めた総勢は、学生も加えて73名となりました。この間、先生は、お決まりの赤を身に付けられ、到着した同門生とにこやかに談笑されました。

鶴先生と藤原先生のご祝辞で始まったお祝いは、花束贈呈、記念品贈呈と続きます。芳本先生には、「Happy 60th Anniversary Tadashi Yoshimoto」とレーザーで刻印した iPod photo に出席者の写真と、これまでに明らかにした酵素の立体構造のCGを取り込み、アクセサリー一式を添えて、また同席していただきました奥様には「芳本常代・生物工学同門会より」と刻印したグリーンの iPod mini をお贈りしました。

同門の皆さまはご存知だと思いますが、研究室内には普段あまり見かけないような工具類などがおもちゃのようにあります。また最近の学生は知らないかもしれませんが芳本先生はテニスがお好きです。楽しむ暇がないのが現実ですが、同時にお送りした「赤のキャップと赤のスポーツタオル」と一緒にテニスを楽しまれ、おもちゃを手にしてる先生を思い浮かべてみてください。

長くなりそうなので、そろそろ締めようと思うのですが、まだ永田修一先生による乾杯すら書いていませんでした。途中は省略させていただきます。その後、芳本先生によるスライドショー講演もあ

り、終始和やかに進んだ会は、角さんにしっかりと締めていただいたのでした。教授ご就任から11年経って催された還暦の会は3枚目の写真のように大勢の出席者で盛り上げられました。会の様子は写真に広がる笑顔からご想像下さい(下田君(平



教授就任祝賀会（平成6年5月）

2), 次の時はちゃんと写して下さい。全ての出席者のお名前は記しませんが、ご賛同いただきました皆さま、ありがとうございます。今後も益々発展されていかれることを願って筆を置きます。



諏訪神社にて



松亭にて

平成2年卒&理由年組（昭和61年度入学生）同窓会報告

山本 稔（平2）

「5年後にまた会いましょう。」そう言って解散した前回の卒後10年の同窓会から早や5年。あっという間に卒後15年の同窓会を行う年、2005年が

やって来ました。幹事の私は、少しブルーになりながら、重い腰をなんとか持ち上げ、まずは1月に長崎市内在住者とアメリカから帰国した井手さ

んに集まってもらい、打ち合わせを行いました。その結果、3連休の中日がいいだろうということで9月18日(日)開催と決まりました。

開催日は決まったものの、案内状作りでまたブルーに。富田君、峰さんに後押しされながら、なんとか案内状を送付できました。返信一番乗りは西村(小林)さん。なんと案内状を出したその日の夕方に戻ってくる素早い返事に驚かされました。その後、続々と返事が集まり、出席者は総勢33名。氏名は以下の通りです。

秋吉隆治、阿部(日迫)睦美、荒木小百合、井手指月、宇賀美帆、江頭(穂山)道子、岡本晶子、小山季之、小山(山崎)令恵、鍵本明男、樫本(岡田)知子、川口(永渕)栄子、川口晋紀、川口(山本)和美、下田(浦川)幸枝、杉本さつき、常岡(道祖尾)万以子、富田 守、西村(小林)美穂、鳩貝(藤原)晶子、堀 貴子、間瀬(香月)香澄、松井理代、松田(富永)祥子、松元(高)玉緒、峰美和子、森奈津子、森川慎也、森川(濱田)かおる、森下(山田)恭子、山内秀樹、山内(増田)美和子、山本 稔

前回同様、多数参加していただき、幹事として嬉しい限りでした。欠席者組で報告したいのは、締め切りに間に合わすためにわざわざ速達で出してくれた岡村(柴田)さん、開催日前日にわざわざ欠席の返事をくれた下田君、とってもし出席したそうで残念そうだった熊高(岡田)さんなど、気持ちがかもっていて大変嬉しく思いました。

開催日当日、子供の運動会なども重なり、バタバタしながら私が会場のホテルセントヒルにたどり着いたのは、開宴30分前。ちょっと遅くなってしまったと恐る恐る会場へ行ってみると一番乗りは森なっちゃん。幹事の私より早い到着でした。その後、皆さん続々と集合し、例によって長崎時間してくる方もいましたが、なんとか開宴前の集合写真を全員揃って撮る事ができました。今回も富田君がわざわざ重いカメラ、三脚を持参して撮影してくれて大変助かりました。富田君の見事なテクニックで全員15年の歳月を感じさせず、学生時代のように若々しく撮れていました。

その後、いよいよ開宴。まずは幹事の私が挨拶を述べた後、地元で頑張っている鍵本君に乾杯の音頭をとってもらいました。その後はそれぞれの

テーブルで久しぶりの再会に話が弾んでいました。近況報告などをしてもらって場を盛り上げようかと思っていた幹事の心配をよそに、それぞれで大いに盛り上がっていました。今回は子供連れの参加が多く、広い畳の部屋ではしゃぎまわる子供たちでとても賑やかでした。子供好きの秋吉くんの周りには子供たちが群がっていて、遊び相手で大忙しの秋吉くんでした。家族4人でホテルに来ていた山さんにはぜひ家族も一緒に誘ったのですが、照れくさかったのか宴会は遠慮したいとの事で子供さんだけ記念写真に入ってもらいました。例によって山さんは富田君の後を追ってテーブル毎の記念写真にすべて写っていました。やはり、山さんは何年たっても山さんなんだなと思いました。小山君は皆の期待に応えて、令恵ちゃんの制止を振り切ってジャージで参加してくれました。情報処理センター(懐かしい響きです)M君からの情報によると、某2名の方から「平成2年卒やったら、おれらはでられへんやないか」との抗議がでているとのことでした。私は個人的に小川君が卒業アルバム作成時に発案した理由年組という響きが妙に気に入っておりましたので使わせてもらっていたのですが、理解してもらえなかったようなので、次回と同窓会開催時は昭和61年度入学生ということで案内したいと思います。そうこうしている間にお開きの時間になり、最後は山さんの音頭によるちょっとタイミングの合わない万歳三唱でお開きとなりました。

二次会は駅前の白木屋に移動して25名が参加しました。ちょうど時同じくして開催されていた九州山口薬学大会の運営のため、残念ながら一次会欠席となっていた百岳(神浦)さんが二次会から参加してくれたので、二次会の乾杯は百岳さんに音頭をとってもらいました。二次会も大いに盛り上がり、最後は東京から家族連れで来てくれた森川君による一本締めで終了しました。終わったのは11時前くらいだったと思います。その後、5年ぶりの再会で名残惜しいのか、皆、帰ろうとせず、三次会へも17名の参加がありました。場所は手軽に白木屋の2階の魚民と、上に移動しただけでしたが、12時過ぎても皆帰る気なんて毛頭ないかのように話に花が咲き、お開きになったのは、2時前でした。年を取ったせいか、四次会までと学

生時代のような元気のある人はさすがにいませんでしたが、皆、名残惜しくそれぞれ家路に着いたのでした。

以上、取り止めのない話しとなりましたが、平成2年卒&理由年組(昭和61年度入学生)の卒業15年の同窓会の報告とさせていただきます。まだ、書き足らない部分が多々ありますので、詳細については出席者の方にお聞きください。

最後に、今回も多数の出席で盛会に同窓会を終えることができ、幹事として心より御礼申し上げます。特につくばから来てくれた川口夫妻には、天候によっては航空券が無駄になるかもしれないリスクをかえりみず出席して頂き、幹事として本当に嬉しく思いました。また、開催日が運動会シーズンだったため、出たくても出られなかった方々には深くお詫びいたします。次回はできるだけ多くの方が出やすい日に設定できるよう努力します。

それから、わが学年の同窓会は山さんがいれば、おのずと盛り上がるのですが、やはり、山さんと言えば、「その仲間達」。次回は卒業20年となりますので盛大に盛り上がるためにも「その仲間達」の方々の出席をお待ちしております。

それでは、昭和61年度入学生の皆さん、「5年後にまた会いましょう!!」

(追記)

本同窓会の翌朝、我が長楽野球部の後輩である小畑 滋君の訃報を聞くこととなりました。小畑君は笑顔が絶えない真面目で人望のある男でした。このような結果になって、本当に残念でなりません。いつだったか、野球部のOB戦で2安打し、「稔さん、ヒット2本も打っちゃいましたよ。」と笑顔で話していたのが、今でも心に焼き付いています。心からご冥福をお祈り申し上げます。



久々の「薬化大会」しました

鶴屋伸一郎(平3)

「ここに五郎先生がいらしゃることにして、乾杯!」という都知木先輩(昭56)の名調子による乾杯の声で、久方ぶりの「薬化大会」がスタートしました。今回は、義兄の城下さん(昭61)の天の声に導かれ、不肖鶴屋が幹事をさせて頂きました。長崎近郊の方々に声をかけようとしたのです

が、どなたに声をかければよいのやら悩んでしまいました。結果、宴会の席で先輩方から、「あいつはどうした」「〇〇には連絡しなかったのか」と沢山のご指摘を頂きました。研究室の飲み会の幹事は大変です。

参加者は、お世話になった松田先生(昭37)、富

永先生（昭44）から今は何をやっているのか良く分らない？峰松君（平8）まで20名でした。峰松君の名誉のために書き添えますと、現在は情報関係の会社を自ら立ち上げ、薬局等でも仕事があるとのことでした。後藤先輩（昭57）は大分から参加して下さり、遠く東京からは古野夫妻（平3・平5）が子供連れで参加してくれました。「たまたま聞き付けて」とのことで大変ありがたかったです。近況報告では、松田先生は審議会の委員をされていて定期的に鶴丸さん（平5）と一緒になるようになったとのこと、富永先生は最近も新しい反応を見つけたと熱く語られ現役バリバリといった様子でした。さらには、稔稲子先輩（昭61）が薬剤師を始められたという危険な情報や、製薬会社の名前がコロコロ変わっているといった、

科捜研（くれぐれも鑑識ではありません）にいる私にとっては、あまり馴染みのない話もありました。それでも私の目には、私を除いて皆様お変わりなく、薬化学教室当時そのままに映りました。相変わらずおしゃべりな方、相変わらず勧め上手な方、相変わらず... で、本当に賑やかな集まりを持つことができました。参加して頂いた皆様にご場を借りて改めてお礼を申し上げます。

二次会は大野先輩（昭54）にも参加頂きなつかしい「モロッコ」でこれまたワイワイたのしい時間が過ぎました。心残りは、話が弾み過ぎて、一次会、二次会とも料理があまり食べられなかったことでしょうか。

今回は、もっと色々な方々にお会いできたらと思わずにはいられない一日でした。



2005年12月3日 京華園にて

平成11年度卒業生同窓会

今村 朋史（平11）

今年も昨年に引き続き長崎くんちの真っ只中に同窓会を開催しました。昨年はかなり前から準備をしていましたが、今年手抜きをしまいぎりぎり準備を始めたせいか13人という非常に少人数での開催になってしまいました。それはそれで面白かったのですが…。来年も同様に10月の連

休前にしようと思っていますので同級生の皆さんはそのつもりでいてください。大人数での同窓会を期待しています。

学生の頃と違い、社会人になり、結婚し子供もいる人がいたり、それぞれ事情があってなかなか大人数が集まりにくくなっているように感じて

います。少しでも多くの人数を集めようと考えていますが、これからは年々寂しくなっていくのではと心配しています。でもめげずに毎年開きたいと思っています。各学年の同窓会を仕切っている幹事さんで、もし人を集めるいい方法があればぜひ教えていただきたいものです。

今年は去年の反省を生かして、一次会と二次会の場所を両方とも出島ワープにし、移動する手間を省きました。去年は、おくんちの出店の前を混雑している中みんなを歩かせてしまい迷惑をかけたからです。

一次会は、「ながさきぶらぶら邸」にしました。前に利用したことがあり融通がかなり利く店なので選びました。幹事が遅刻（去年よりもひどかった…）してしまいみなさんに迷惑をかけてしまったことをここでお詫びします。乾杯の挨拶（今村）も適当に会を始めました。今年は人数も少なかったのであまりすることもなくゆっくり飲み、皆と懐かしい話で盛り上がることができました。一次

会の締めは、新婚の徳久くんをお願いしました。

二次会は、すぐそばの「R-10」、ここは一次会の店に紹介していただきました。内装もかっこよくおしゃれな店です。ほぼ全員が二次会まで来てくれました。乾杯の挨拶を沼田くんをお願いし、二次会が始まりました。それなりにお酒が入ってきて、いろんな話が出てきましたがここでは省略させていただきます。よく覚えていませんが確かに閉会の挨拶はなかったように思えます。まあこんな感じで適当でいいだろうというものだったのでしょう。

三次会は昨年同様ラーメンです。寂しく4人で乾杯しました。水餃子とチャーハンがうまかった!!不思議と入るものですね。

来年もたぶん開催します。みんなは「おつかれさま」とか「ありがとう」とか言ってくれますが、幹事とは名ばかりで何もしてません。こんな会でよければみなさんぜひ来てください。それなりに楽しいですよ（^0^）



近 況 報 告

濱野 環（平12）

みなさま、こんにちは。久しく会っていない同窓生をはじめ、諸先輩後輩方、お元気でしょうか。

同窓会報に寄せて、近況および自分を取り巻く環境について思うことを書いてみたいと思います。

私は卒業後企業に就職し、生物系の研究員として3年半働いていました。仕事内容は大学で学んだ知識を生かせる大変やりがいのあるもので、上司にも職場環境にも恵まれて、とても充実していました。1人目の子供を出産後、子育てという仕事加わって環境が変わり、ワーキングマザーとして1年余を過ごしてきましたが、今後の子育てと現在の仕事を両立させることについて、困難に思うことがあり、来年2人目の子供が生まれるのを機に思い切って退職しました。

夫も私も通勤時間は1時間程で、フレックスを利用して夫が遅朝出勤遅帰りで朝の育児と保育室への送りを担当、私は早朝出勤早帰りで保育室へのお迎えと夜の育児を担当していました。両親ともに居住地が遠いため、子育てに対する日常的な親のサポートは頼れず、仕事の都合で子供の面倒をみられないときのために、ファミリー・サポート・センターに登録していました。ファミリー・サポート・センターとは、地域において育児や介護の援助を受けたい人で行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織です。この事業は、働く人々の仕事と子育てや介護の両立を支援する目的から労働省（当時）が構想し、各地で市区町村により設立運営されています。私の住んでいる地域ではNPO法人組織がファミリーサポートを行っていたため、そこに加入して、緊急時にはお願いできる体制を整えていたのです。

しかし、風邪を引くとすぐに喘息が出る子供を、吸入のために病院へ連れて行ったり、お腹を壊して保育室に行けない子供をファミリーサポートの方に預けることは出来ず、子供が具合が悪くなった次の日に夫が倒れ、次に私が倒れるという家庭内病気連鎖も起こり、あっという間に有休はなくなり、自分の満足できる仕事も出来ずという予想された状態に陥ってしまいました。子供が小さいころは仕方ないよという周囲の声も多々ありましたが、仕事や育児が中途半端になっている状態に自分で納得することは出来ませんでした。そんな時「仕事の代わりはいるかもしれないけれど、母親の代わりはいないよ」という知人の言葉はとても胸に響きました。

1人目の産休に入る前、会社の方から「親ばかりでないと子育てはやってられない」という言葉を頂きました。確かに、好き勝手出来る自分の時間はなくなり、本能のままに生活し、やりたい放題の子供に付き合っていくのは親ばかりでないとやってられないのかもしれませんが。退職するという決断は私にとって大きな岐路でしたが、この選択で良かったと思っています。今後は子育てと両立できる環境で余裕をもって働いていきたいと思っています。みなさまも人生色々な岐路があると思いますが、悔いのない、よい選択をなされることを願っています。また、働く母親にとってよりよい社会環境になることを願ってやみません。

長大病院薬剤部併設研究室同門会報告

友成 正英（平12）

平成17年8月20日、長崎市内にて長大病院薬剤部併設研究室の同門会を行いましたので報告させていただきます。

この会を行うきっかけとなった出来事は、約半年前…いや1年前？その辺です。私は久々に会う研究室同期メンバーと楽しく酒を交わしていました。「また研究室のみんなが集まって飲みたいね〜。」「同門会やな。」「じゃあ長崎における友成君と福地さんがしきってね〜。」「酒も押しも強いHさんのこの発言から企画がスタートしました。日程決

めから始め、案内状作成、予算見積もり等不慣れな私は四苦八苦ししながら準備を進めました。多くの方にアドバイスを頂き支えられ何とかこなすことができました。

そして迎えた当日。会場となった長崎グランドホテルには予想を上回る40名の方が集まってくださいました。入り口から誰か入ってくる度に再会を喜ぶ声が聞こえました。その声が会場を埋め尽くし、賑やかな雰囲気の中で始まりました。在学中の懐かしい話、お互いの近況報告…。私も社

会人になってから会う機会がなかった先輩方や後輩との再会を楽しみました。8月1日付けで長崎大学大学院医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻臨床薬学講座の教授に就任された中嶋幹郎先生（昭57）へのお祝いもあり、あっという間に2時間が過ぎました。二次会はバーへ移動。30名以上の方が二次会まで参加してくださいました。店は貸し切り状態で、飲み放題の参加者のテンションはピークに達していました。何時間いたのかよく把握できないまま終了。予定していなかった三次会は再び近くのバーへ。そして四次会は二手に別れそれぞれ寿司とラーメンへ。私は寿司を食べに行きましたが、この時点でもまだ8人くらいは居たような気がします。半分寝ながら食べた寿司の味は全く記憶に残っていません。

参加者は終始笑顔で、楽しんでいるのがよく伝わってきました。企画してみて本当によかったと思える時間を過ごすことができました。また、今回出席できなかった方からは、参加できないこと

を悔やむ声を頂きました。私は、研究室にいた時間は、学生時代の中でも特に重要だったと思います。自由気ままに過ごしていた学部生が、初めて組織の人間となった時間です。朝から晩まで知識だけでなく多くの事を学び、社会へ出る準備をするための大切な時期だったと感じます。この時期に出会った先生・先輩・仲間は生涯かけがえのない存在だという人は多いのではないのでしょうか？同門会を行えば会うことができます。これは私達幹事が同門会を企画した理由の1つでもあります。今回出席できなかった方のためにも、この会を定期的に続ける必要性を感じました。まだ未定ですが次回も多くの方のご参加をお待ちしています。

最後に、この会の準備には多くの先生方が力を貸してくださいました。本当にありがとうございました。また、私の不手際でご迷惑をおかけした先生方にはこの場を借りて深くお詫び申し上げます。



第2回同窓会を終えて

小西 宏規（平14）

思えば早いもので、卒業して3年が経ちました。学部卒業すぐに調剤薬局に勤めたので、現在勤務4年目ということになります。初めは苦労した薬の名前もようやく覚え始め、服薬指導もそれなりに自信がついてきたような気もしますが、患者さんの思いがけない質問に戸惑ったり、コンプライ

アンスの良くない方にどう納得してもらい服用してもらえるか、などとうんうんと悩んだりしています。それでもそんな問題がうまく解決できたり、患者さんからありがとうと感謝されたりすると嬉しき、充実感で、薬剤師になって本当によかったなと思います。また大学院博士前期課程卒の人も

社会人2年目、博士後期課程に進んだ人は研究に、それぞれのフィールドで頑張っているものと思います。

さて、去る10月9日、博多にて第2回同窓会が開かれましたので、報告したいと思います。実は第1回目が昨年学園祭期間中に長崎で開催されたのですが、多くのクラスメイトの連絡先が不明だったこともあり、ほとんど内輪の飲み会になってしまっていたので、実質的な同窓会というのは今回が初めてということになります。今回はどうしても連絡がつかない人以外はほとんど案内が届き出欠が取れたものと思います。幹事会、それから協力してくれたみんな、どうもありがとう。

同窓会には30人弱の級友が、連休の中日という日程にもかかわらず参加してくれて、本当に楽しく過ごすことができました。近況を話し合ったり、仕事の愚痴をこぼしたり、来年度から始まる薬学部6年制について意見を交換したり、とまあ在り来たりの同窓会の風景が繰り広げられていたわけですが、でもそれはそれで良いと僕は思います。同窓会でしかできない話をする、同窓会の機会がないとなかなか会えない旧友と語り合い、学生時

代では知りえなかった相手の一面を発見する、お互いの成長を認め合う、そんなことはこの会でないとなかなかできないのではないかと。私事になりますが、人間を相手に商売をするサービス業である薬局薬剤師にとって、日常の業務は答えのないことばかり。行き詰ったとき、誰かに意見を求めたいときに、助けてくれるのが友人です。こんなことがあったんだけど、お前ならどうする？って気軽に尋ねられる機会を作ってくれるのもこの会ならではの。だから今後もなるべく多くの参加者が集まるように会を盛り上げていきたいと思います。

最後になりましたが、幹事会から連絡があります。来年の同窓会は長崎で開く予定とのこと。遠方の人にとってはもっと集まりやすいところがいいとの意見もありますが、思い出の土地でいたいという声もあり、このようになりました。なるべく負担が少なくなるように、いろいろ工夫してみたいと思っています。目標は全員（強制）参加。今回連絡が来ていない人は幹事会、または僕のところまで連絡ください。次回の日程、場所などもなるべく早く決めて連絡いたします。



平成17年度九葉連を終えて

菅原 隆文 (学部4年)

今年も5月3日～5日に福岡大学において九葉連が行われました。今回の参加校は、福岡大学薬学部、第一薬科大学、熊本大学薬学部、九州保健福祉大学、そして長崎大学薬学部の5校で、準硬式野球、硬式テニス、軟式テニス、サッカー、バスケットボール、バレーボールの6競技が行われました。4年の私たちにとって今回が最後の大会で、どの部も九葉連に向けて必死に練習していました。

私は、野球部に所属していました。野球は福岡大学、第一薬科大学、熊本大学、長崎大学の4校によるトーナメント戦で争われ、5月4日に準決勝2試合、5日に決勝と3位決定戦が行われました。私が野球部に入部して過去3大会いずれも準優勝で今年は必ず優勝するという思いで、1年間練習に励んできました。5月4日の1回戦は福岡

大学と対戦し、苦戦しながらも8対2で勝利し、決勝では熊本大学と対戦することになりました。2年連続で熊本大学に決勝で敗れていたの、今年こそ絶対勝ちたいという思いでした。試合はとても厳しい戦いになりましたが、6対4で勝利し、長崎大学が6年ぶり3度目の優勝を遂げました。この1年間、なかなか結果が出ない時期もありましたが、九葉連優勝を目標に一生懸命練習し、マネージャーやOBの方々に支えてもらいながら努力してきた成果が出たのだと思います。このチームで野球ができたことは私の誇りです。これからは野球部OBとして後輩の活躍を見守っていきたいと思います。

今回の九葉連で、長崎大学は、サッカー部が準優勝、女子バスケットボール部も準優勝、男子バスケットボール部が九葉連初勝利と、各種目にお



いてそれぞれの部がこれまでの練習の成果を發揮していました。九葉連でよい成績をあげるのももちろんですが、日々の練習などの過程もとても素晴らしいものだと思います。次回の九葉連は長崎

での開催でもあるので、後輩の皆には楽しくプレーして、素晴らしい思い出をたくさん作ってもらいたいと願っています。

戦後60年後のくびろが丘下の慰霊碑清掃を終えて

山澤 龍治（学部4年）

2005年8月7日、私たちは草木がぼうぼうに生い茂った慰霊碑の清掃に行きました。毎年、事ながら草木の生命力には驚かされます。しかしこの場所で実際に何が起き、どのような光景であったかは、私たち学生の祖父母が幼い時代の事なので、メディアで報道される程度しか知りませんでした。

約40人ほどが集まり、ゴミを拾い、草を刈り燃やしました。大変日差しが強い中、約2時間ほどで清掃は終了しました。慰霊碑に線香を上げ、黙禱を行いました。次に田崎先生（昭22）のお話がありました。私は田崎先生のお話を初めてお聞きしましたが、なにか胸の中に言葉では言い表すことができない熱いものと衝撃を感じました。

田崎先生のお話の内容はこうでした。長崎大学在学中に現在建っている慰霊碑の裏に防空壕を掘っていたところに原爆が落ちたこと。田崎先生は直接被爆を避けたが、当時の校舎は一瞬にしてなくなり、被爆した恩師、先輩、仲間はうめき、叫

び声をあげ亡くなっていったことを、涙ながらに話して下さいました。

先生のお話が終わると、私の心拍数が早くなるのがわかりました。考えてみると、宮崎出身の私にとって被爆体験者のお話を直接聞くのは初めてのことでした。

被爆体験記の抜粋冊子を全員に配布され、内容に目を通しました。ふと周りを見渡すと、学生が皆言葉にできない何かを感じ取っているように見えました。

私は無知でした。60年前に戦争があった程度しか知りませんでした。今回田崎先輩のお話を聞き、戦争の本当の悲劇を知ることができました。今回感じた言葉に表すことのできないこの胸の熱さを無駄にすることの無く、後世に伝え二度とこのような事が起こらない世の中にすること、またこの思いが衰退しないように、これからも毎年慰霊碑の清掃に参加していこうと思います。

旧小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃

伊藤 潔（昭59）

本年度事業計画の一つであります旧小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃に関して、事務局で参加者を募りましたところ、9名の方の参加協力を得ることができました。当日（平成17年11月27日の日曜日）は、明け方に雷が鳴るなど天気が危ぶまれましたが、9時過ぎには晴れ間ものぞき、柏葉会館前に集合した8名（諫早の高良先生は現地集合）は、2台の車に分乗し10時ちょうどに出発しました。

10時半過ぎに現地に到着すると、高良先生はすでに草取りを始めておられました。記念碑とその回りの状態は悪くありません。記念碑の後ろを見ると昭和63年6月吉日の建立となっていますから、17年前です。その後も小野島会の先輩方がていねいに手入れをされてきたのではないかと感じます。回りのゴミを拾い集め、雑草を取るとすぐにきれいになりました。朝からの雨のせい、焼却処分には手を焼いてしまいましたが、懸案であった小

野島校舎跡記念碑の清掃事業の第一回目を無事に完了することができました。聞くところによると、小野島校舎は記念碑のすぐ隣のグラウンドのところに建っていたとのことですが、この広々とした諫早の地で先輩方は学ばれていたのですね。

清掃終了後、西協会長の案内で一行はソフトボール場の横を抜けてどこかへ向いました。グラウンドを過ぎ、赤とんぼ広場と書かれた広場の向こうには蔦の絡まった給水塔が目に入ってきました。回りには金網が張られ、新しい設備ができていましたが、一同、しばしなぜか感慨深げに見入って



から、写真を撮ったのでありました。

帰り際、さきほど清掃を終えた記念碑に目をやると、刻ま

れた金色の文字が、長葉のシンボル「柏の葉」とともに、ひときわ美しく輝いて見えました。

ひっそりと、静かに建っている記念碑ですが、昔、薬学専門部の校舎はここに建ち、歴史が刻まれていたのです。すぐ隣には諫早「干拓の里」もあります。機会がありましたら、記念碑のことを思い出し、是非一度訪れてみて下さい。

場所は、諫早干拓の里の横で、市営ソフトボール場のすぐ隣です。詳しくは同窓会ホームページをご参照下さい。

参加者のお名前は次の通り。西協金一郎、高木康、木下敏夫、中島憲一郎、上田孝子、高良真也、中嶋弥穂子、伊藤潔、武次郁子、以上9名。



クラブOB会だより

平成17年度野球部OB会とOB戦観戦記

伊藤 潔 (昭59)

11月12日の土曜日、午後6時から毎年恒例の長葉野球部OB会が開催されました。場所は江山楼浦上店。聞くところによると、いくつかの催し物の日程と重なったらしい。そのためいつもの畳の会場がイス席に変わったのを除けばこれも恒例となった会場である。紹興酒の小瓶もサービスされ、いつから使わせていただいているのか、正確な記憶はないが、お店にも気を遣っていただくほどの会になっていたのかと勝手なことを考えてしまった。今年の参加者は、OBが昨年と同じ39名、現役部員が29名の68名。九州外からの参加者が5名もあり、お名前を挙げさせていただく。昭和31年卒の森健治先輩は埼玉より、「5年ぶりくらいか」とのことでした。昭和35年卒の北島四郎先輩は大阪から2年ぶり。平成2年卒の城戸充彦氏は名古屋より、何年ぶりかわからない久しぶりの参加。それから、平成14年卒の川端、鈴木両氏は共にはるばる東京からの参加。ありがたいことです。ちなみに、OBのうち昭和組は15名で、昨年よりも2名増。他は平成の若武者たちだ。

案内でもお知らせした通り、今年はニュースの多い年となった。平成17年9月19日に、突然35歳の若さで還らぬ人となってしまった平成6年卒の小畑滋氏。今年に入ってから野口繁一先輩(昭9)、野村智城先輩(昭25)のお二方も亡くなられており、会に先立って3氏のご冥福を祈り全員で黙禱を捧げた。一方、明るいニュースもありました。ここ数年、あと一步のところまで涙をのんできた野球部が、6年ぶりとなる通算5度目の九葉連優勝を果たした。また、昭和57年卒の中嶋幹郎先輩が、我が長崎大学薬学部の病院薬学研究室の教授に就任された。1年という間にはいろいろなことがありますが、いつもの顔、久しぶりの顔、はたまた初めての顔に会い、時の流れを実感したり、

その流れに逆らおうとしてみたりできる会のようです。

司会進行は前キャプテンの菅原隆文君。九葉連の優勝を堂々とOBに報告し、出席者の注目は前方に集中しました。まずは、西脇金一郎同窓会長(昭33)のご挨拶。申し上げるまでもなく、野球部だけでなく長葉同窓会の会長も務められ、本OB会には欠かさず出席していただいている長葉OB会の父です。中嶋幹郎先生には教授ご就任の記念として、野球部から現チームの帽子を贈呈し、それを深々とかぶった姿でご挨拶を頂戴しました。さて、乾杯の音頭は森健治先輩にお願ひし、今年もプレーボールが宣言された。

宴会の様子は昨年、一昨年、あるいはもっと以前の同窓会報をご参照いただきたい。「いいものは変わりません」。院生を含む現役学生による巻頭言と校歌斉唱。今泉貴世志先輩(昭31)からの準硬式ボールの贈呈。を見つけることができるはず。全出席者が注目する10分間だけ記しましょう。翌日開催するOB対現役の親睦試合のOB側先発メンバーの発表。ピッチャー今泉(昭31)、キャッチャー鈴木(平14)、ファースト中嶋幹郎(昭57)、セカンド城戸充彦(平2)、サード井石政之(平4)、ショート佛坂浩(昭61)、レフト田中博隆(平11)、センター秋吉隆治(平3)、ライト山本稔(平2)。加えてピッチャー、吉田研次(昭37)、平川善章(昭63)、川端英司(平14)。晴れの先発メンバーは九葉連優勝の現役チーム打倒を目指し、気合いを入れた。締めは、忙しい中、昨年に続き駆けつけてくれた日宇宏之氏(平7)、万歳三唱で野球部OB会の発展を祈った。失礼ながらベンチスタートのOB選手の名前は以下の通り。森健治(昭31)、西脇金一郎(昭33)、北島四郎(昭35)、高木康(昭35)、松田米人(昭50)、菅原正典(昭

51), 田原務(昭51), 濱田哲也(昭54), 伊藤潔(昭59), 久松貞義(昭60), 鶴屋伸一郎(平3), 金村隆則(平6), 大石貴裕(平7), 豊山英樹(平7), 日宇宏之(平7), 菓子野元郎(平8), 横道重治(平8), 平良文亨(平9), 八木洋一(平9), 坂田真人(平15), 永川貴(平16), 小川恭平(平16), 富盛裕司(平16), 三宅洋一郎(平16), 牟田響(平16), ト部奏(平17), 平林圭輔(平17)。会の模様の写真等は, 野球部同窓会ホームページでもご覧ください。http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/dousou/club/baseball/homebase.html

OB戦観戦記

平成17年11月13日(日曜日)。恒例の長葉野球部OB戦は, 紅白戦の1イニングに続いて10時ちょうどにプレーボールとなった。先攻はOB。1番今泉は昨年に引き続きノーアウトのランナー(臨時代走はト部)。2番鈴木も続いて, 2, 3塁。3番坂田の内野ゴロの間に待望の先取点をあっさりゲット。久々の参加で4番に入った城戸は四球を選び, 追加点を狙ったが, 5番井石は2ゴロのダブルプレーに打ち取られ, 初回の攻撃を終えた。残念ながら今泉先生は所要のため, 1回の打席のみで, OBの先発マウンドには, 前夜の宴会を, 重なったクラス会のため泣く泣く欠席した吉田



OB会



先発メンバー



OB戦

(昭55)。子供からは「おやじ」といわれるとつぶやいていたが、正真正銘の野球親父。草野球、草ソフトで日頃から鍛えた体で現役先頭の新人・川崎を迎えた。その後は省略して、試合経過は下のスコアボードを見ていただこう。現役の堅実な守備とセンター中心にはじき返すシャープな打撃が目立った試合だった。九葉連に優勝するにはこれだけの実力が必要だということでしょうが、実はOBチームのメンバーも実力派(だった)。九葉連大会は昭和34年に始まったと聞きますが、最初の優勝投手の吉田研次(昭37)。2回目の優勝は昭和46年の大会とのことなので、仕事が多忙を極めていた年代。3回目の優勝は西木紳一(故人)、吉田泰史(共に昭55)の二人の投手を擁していた。そして前回の4回目優勝時のバッテリーは川端英司、鈴木秀明(共に平14)。そう、歴代の優勝投手が力投していたのです。点差は開いたけれど、最後まで締まってできた試合と感じさせてくれた。印象に残ったものを独断で挙げさせていただきます。井石政之(平4)。練習する時間はほとんどなくても薬剤師のチームをまとめて試合をこなす野球親父。外野への快心の飛球が印象的だった。平川善章(昭63)は昨年に続き、粘り強いピッチング。ヒゲの佛坂浩(昭61)は守備に打撃に往年のセンスの片鱗をのぞかせた。2時間の試合中、筆者の勘案事項は来てくれたOB全員に試合に出てもらおうこと。見逃した好プレーもあったに違いない。記念撮影

の後、全員ケガもなく無事に皿うどん会場へ向った。

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
O B	1	1	0	0	0	2	0	0	0	4
現 役	3	4	3	1	4	0	0	0	X	14

試合後は恒例の皿うどん+パーティー、畳が新調され格段に美しくなった(?)集会場で、野球おやじ達を若い実力派現役部員が囲んだ。現役の九葉連優勝を自分のことのように喜ぶOBは、新制現役チームのために捕手用防具一式の支援をその場で募り、藤村キャプテンに初の2連覇の夢を託した。なぜかOB戦参加者のポジションはピッチャーが多い。何かと問題のある部員を率いてマウンドに立っていた苦勞は忘れられないのだろう。今年は外野の人材が不足気味だったが、マウンドを見送りレフトに回った田中(平11)は、ピッチャーのしんどいところを好捕で救った。センター秋吉(平3)、同期のレフト山本(平2)は、早い球足で飛んでくる現役の打球を右に左に、また後ろに追いかけてくれた。偶然にも誕生日と重なった秋吉君、歳は書かないけれどおめでとう。毎年の参加、感謝します。

全国のOB諸氏。昔のグローブまだ押し入れにしまっているでしょう。息子さんのグローブを借りるのも良案です。失くしてしまった方には無料の貸し出しもありますよ。

第21回薬学硬式庭球部OB会

三宅 秀明 (平17)

11月5日、6日の2日間、第21回薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

5日は松山の市営コートでOB対現役生による対抗戦を行いました。途中天候が悪くなることもありましたが、テニス日和のなか、今年は5面のコートを貸し切って、多くの試合ができました。結果はOB15勝4敗、OG5勝2敗と、今年もOB、OGの圧勝に終わりました。対抗戦後、懇親会を宝来軒別館にて行いました。参加者はOB、現役生合わせて約70名にのぼり、盛大に行うことができました。懇親会では、石黒先生のお話、山本先輩(院昭55)のお話、お昼の試合のこと、恒例の庭球部の歴史、就職についてのアドバイスを受けるなど、様々な話題で盛り上がり、OBの方々と現役生とのつながりが深まったように思います。

6日は雨のため残念ながらテニスを行うことはできませんでしたが、今年も多くのOBの皆様が集まっていただき、盛大なOB会となりました。今年の現役生はいい素材が集まっているように思われますので、来年はもっと白熱した対抗戦になると思います。

最後になりますが、長崎大学薬学硬式庭球部は今年でOB270人、1年生も14人入部して薬学部の中でも大きな部の1つとなりました。今年は残念ながら出席できなかった方も、ご都合がございましたら是非、来年はご参加ください。現役一同、心よりお待ちしております。

今年のベストマッチ

(現役&来期部長 vs.石黒先生&山本先輩ペア)



平成17年度軟式庭球部OB会

雄野 智子 (学部4年)

11月26日の土曜日、午後6時から毎年恒例の長楽軟式庭球部OB会を開催いたしました。今年はOBの方がたくさん来られ、大盛況のOB会となりました。開始時刻前から降り出した雨のため、集合に若干の心配を抱えていましたが、OBの方をはじめみなさんの集まりはとてもよく、感激しました。

今回の参加者は、OBの方が11名、現役部員が26名の総勢37名。こんなにたくさんOBの方が来てくださったOB会は、私が出席したなかでは初めてです。参加されたOBの方のほとんどは、私達をかわいがってくださった先輩方ばかりでした。久しぶりにお会いした先輩方は以前と変わらない笑顔で私たちに接して下さって、お世話になっていた頃を思い出し、たいへん懐かしくなりました。席のあちらこちらで、仕事の話やテニスの話などで盛り上がっていたようで、幹事として

もその光景を嬉しく感じました。OBの方から就職・進学についてのアドバイスもらった現役学生も多く、また後輩たちも研究室配属や普段の講義のことなど、上級生から話を聞いたりして、それぞれが有意義な時間になったのではないかと思います。

翌日のOB戦は雨のため中止となり、物足りないOB会にはなりましたが、OBの方々の「楽しかった」の声をたくさんいただきまして、本当に嬉しくまたありがたく思っています。OBのみなさん、お仕事お忙しいにもかかわらず、時間をさいて出席していただき、本当にありがとうございました。来年も今回のような楽しいOB会になるといいですね。このようなOB会がずっと続いていき、いつまでも先輩後輩のつながりがある軟式庭球部であってほしいと感じました。



庶務報告

中嶋弥穂子（院昭61）

○定例理事会

平成17年4月16日(土)午後1時より同窓会館「柏葉会館」1階研修室で開催され、会長挨拶の後、平成16年度事業および決算報告、平成17年度事業計画案および予算案等が討議されました。また、平成17年度長業同窓会定期総会に関して長崎支部ぐびろ会会長 伊豫屋偉夫氏（昭41）より案内がありました。さらに、平成18年度定期総会については、6月第2土曜日（平成18年6月10日）に小倉ステーションホテルでの開催を予定している旨の報告が会長よりありました。

昨年より病氣療養中の事務局 大河内美代子氏より辞職の申し出があり、承認されました。後任は、昨年より事務局を補佐していただいています武次郁子氏です。

○平成17年度長業同窓会定期総会

平成17年6月11日(土)午後5時より、長崎市の「ホテルセントヒル長崎」にて開催されました。開会挨拶の後、まず物故者に対して黙禱を行い、引き続き校歌斉唱、西脇金一郎会長の挨拶がありました。その後、三浦博史氏（昭33）を議長に選出して議事にはいり、平成16年度の事業ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ承認を得

ました。続いて平成17年度事業計画案ならびに予算案が示され、原案どおり承認されました。また、定例理事会で承認されました事務局 大河内美代子氏の辞職と後任の武次郁子氏の就任が報告されました。

その後、同じ会場で開かれた懇親会は、大変和やかで盛大な懇親会となりました。

○長業同窓会関連施設の維持・管理

平成17年8月7日(日)に、ぐびろが丘 原爆慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・事務局および現役学生で行ないました。また、11月27日(日)に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員・事務局で行ないました。

○寄贈および寄附

福地多久郎氏（昭23）よりご自身の書かれた紀行文「信州・安曇野 道祖神めぐり」、「流水クルーズとSL 釧路湿原の旅」、長崎大学医学部・歯学部附属病院薬剤部より「薬剤部15年のあゆみ(故 市川正孝教授業績集)」の寄贈がありました。また、関東支部より6月4日の関東支部総会と併せて開催された関東支部卒後セミナーの講演を収めたDVDの寄贈がありました。

閲覧ご希望の方は事務局までご連絡ください。

物故者氏名

前会報（44号）に発表のあと亡くなられた方、及び死亡が判明した方（敬称略）

氏名	卒年次	死亡年月日	氏名	卒年次	死亡年月日
田代 欣一	大12	平16. 11. 17	鮫嶋 濃夫二	昭17	平17. 7. 11
山川 喜一	昭4	〃 17. 2. 7	高田 馨	〃 19	〃 15. 6. 15
木下 雅輔	〃 5	〃 17. 2. 一	磯部 順市	〃 20	〃 17. 8. 29
板倉 興(旧黒田豊次郎)	〃 5	〃 8. 8. 27	椎名 章夫	〃 20	〃 17. 8. 24
松尾 晋	〃 7	〃 15. 8. 13	松友 雅夫	〃 23	〃 17. 11. 13
野口 繁一	〃 9	〃 17. 1. 24	中野 壽之	〃 25	〃 17. 4. 12
池田 穰	〃 10	〃 17. 6. 14	野村 智城	〃 25	〃 17. 4. 28
杉元 重武	〃 11	〃 16. 12. 12	前田 太刀雄	〃 33	〃 17. 1. 14
羽崎 徹男	〃 13	〃 15. 11. 19	山口 道雄	〃 33	〃 17. 9. 3
仲松 彌元	〃 13	〃 16. 9. 19	荊木 暢一	〃 35	〃 16. 9. 26
那波 勉	〃 14	〃 17. 4. 10	猪平 由美子	〃 39	〃 17. 5. 2
平山 繁利	〃 15	〃 17. 5. 17	佐久間 滋子	〃 55	〃 17. 2. 13
宮崎 清	〃 16. 3	〃 17. 7. 23	小畑 滋	平6	〃 17. 9. 19
田中 泰弘	〃 16. 12	〃 17. 10. 12			計 27名

学 内 記 事

(海外渡航)

種別	官 職	氏 名	渡 航 先 国	期 間	渡 航 目 的
出張	講師	井上 誠	中国	H16. 12. 16 H16. 12. 20	中国薬科大学表敬訪問及び上海第二医科大学と共同研究打ち合わせ
出張	教授	甲斐 雅亮	中国	H16. 12. 20 H16. 12. 23	復旦大学薬学院表敬訪問
出張	助教授	和田 光弘	アメリカ合衆国	H17. 2. 26 H18. 2. 25	文部科学省海外先進教育研究実践支援プログラムにて「薬学教育への臨床重視型実務教育の導入」の取組担当者として研修を行う
出張	教授	甲斐 雅亮	アメリカ合衆国	H17. 2. 27 H17. 3. 7	「分析化学及び応用分光学に関するピッツバーグ会議」に出席し、核酸の分光学的検出法に関する情報収集及び学術調査を行う。
出張	教授	松村 功啓	ベトナム	H17. 3. 10 H17. 3. 13	ハノイ工科大学との学術交流のための情報収集
出張	教授	植田 弘師	オーストラリア	H17. 3. 22 H17. 3. 26	日本薬理学会参加及び痛み研究会参加
出張	教授	河野 通明	フランス	H17. 3. 23 H17. 3. 31	国際学術研究交流委員会に係る研究打ち合わせ
研修	助手	柳原 克紀	シンガポール	H17. 4. 22 H17. 4. 25	アジスロマイシン短期治療の妥当性への会議出席
出張	COE研究員	菓子野元郎	イギリス	H17. 5. 10 H17. 11. 10	マイクロビーム装置の取扱い技術習得
出張	教授	松村 功啓	台湾	H17. 5. 12 H17. 5. 15	中国医薬大学視察
出張	助教授	尾野村 治	カナダ	H17. 5. 13 H17. 5. 18	第207回アメリカ電気化学会への出席・発表および打ち合わせ
研修	助手	柳原 克紀	アメリカ合衆国	H17. 5. 23 H17. 5. 28	アメリカ胸部学会会議出席及び発表
出張	助手	柳原 克紀	アメリカ合衆国	H17. 6. 3 H17. 6. 8	2005年アメリカ微生物学会出席および情報収集
出張	助手	小野 正博	カナダ	H17. 6. 17 H17. 6. 25	Society of Nuclear Medicine 52nd Annual Meeting にて研究発表、情報収集
出張	教授	植田 弘師	①カナダ ②アメリカ合衆国	H17. 7. 7 H17. 7. 14	①トロント大学 Yeomans 教授との共同研究打合せ ②国際麻薬研究会議出席
出張	教授	黒田 直敬	エジプト	H17. 7. 18 H17. 7. 23	エジプト政府主催 Channel System program に基づく Mokhtal Mohamed Mabrouk 教授との研究指導打合せ
出張	教授	中島憲一郎	エジプト	H17. 7. 18 H17. 7. 23	共同研究打合せ
出張	助手	渡邊 健	アメリカ合衆国	H17. 7. 22 H17. 8. 1	国際ウイルス会議参加及び発表
出張	教授	松村 功啓	イタリア	H17. 7. 30 H17. 8. 7	情報収集・研究打合せ、第20回国際複素環会議出席
出張	教授	甲斐 雅亮	ケニア	H17. 8. 21 H17. 8. 30	The Kenya Chemical Society 5th International Conference への出席

種別	官 職	氏 名	渡 航 先 国	期 間	渡 航 目 的
出張	教授	中島憲一郎	韓国	H17. 8. 29 H17. 9. 3	第43回国際法中毒学会会議 (TIAFT) 出席
出張	教授	畑山 範	フランス	H17. 9. 8 H17. 9. 18	①学術交流協定締結等 ②日仏医薬精密化学学会議出席 ③研究打合せ
出張	教授	植田 弘師	カナダ	H17. 9. 8 H17. 9. 13	カナダとの二国間交流事業に基づく研究打合せのため
出張	教授	松村 功啓	韓国	H17. 9. 27 H17. 9. 29	第56回国際電気化学学会に出席, 発表
出張	教授	芳本 忠	カナダ	H17. 10. 14 H17. 10. 22	第4回国際プロテオリシス学会
出張	教授	中嶋 幹郎	アメリカ合衆国	H17. 10. 22 H17. 10. 30	第20回日本薬物動態学会/第13回北米薬物動態学会合同学会発表
出張	教授	植田 弘師	ドイツ イギリス アメリカ合衆国	H17. 11. 7 H17. 11. 21	Society for Neuroscience 2005 (第35回米国神経科学学会) 参加・情報収集, ベルリン, マンチェスター, ニューヨークでの共同研究打合せ
出張	講師	井上 誠	アメリカ合衆国	H17. 11. 11 H17. 11. 21	Society for Neuroscience 2005 (第35回米国神経科学学会) 参加・情報収集, ニューヨークでの共同研究打合せ
出張	助教授	田中 隆	韓国	H17. 11. 28 H17. 12. 1	韓国薬学会シンポジウム講演及び研究打ち合わせ
出張	教授	中島憲一郎	アメリカ合衆国	H17. 12. 15 H17. 12. 21	2005環太平洋国際化学学会議出席
出張	助教授	石原 淳	アメリカ合衆国	H17. 12. 15 H17. 12. 21	2005環太平洋国際化学学会議に出席, 特定領域研究に関連する情報および資料の収集
出張	教授	畑山 範	アメリカ合衆国	H17. 12. 15 H17. 12. 21	2005年環太平洋国際化学学会議に出席, 基盤研究B(2)に関連する情報および資料の収集

(異 動)

異動年月日	異 動 内 容	職	氏 名	所属研究室	備 考
16. 12. 31	辞 職	教 授	渡 邊 正 己	放 射 線 生 物 学	京都大学原子炉実験所教授へ
17. 8. 1	昇 任	教 授	中 嶋 幹 郎	病 院 薬 学	医学部・歯学部附属病院薬剤部助教授から
17. 8. 1	採 用	講 師	大 脇 裕 一	病 院 薬 学	
17. 10. 1	昇 任	助 手	北 村 美 江	附 属 薬 用 植 物 園	環境科学部教授へ

平成16年12月1日付け

機器分析センターは共同研究交流センター 先端科学研究支援部門となった。

(学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日
甲第3号	博士(薬学)	おおやま かなめ 大山 要	平成17年3月18日	甲第6号	博士(臨床薬学)	おおわき ゆういち 大脇 裕一	平成17年3月18日
甲第4号	博士(薬学)	ちよう びん 趙 平	平成17年3月18日	甲第7号	博士(臨床薬学)	さいとう まりこ 齊藤麻理子	平成17年3月18日
甲第5号	博士(薬学)	ふるくぼ しげる 古久保 茂	平成17年3月18日				

長 薬 同 窓 会 役 員

(平成17年11月)

本部役員

会 長	西 脇 金一郎	昭和33年	会社役員
副 会 長	高 木 康	昭和35年	高木薬局
〃	伊豫屋 偉 夫	昭和41年	
〃	中 島 憲一郎	昭和46年	薬学部教授
〃	上 田 孝 子	昭和47年	丸山通り薬局
〃	佐々木 均	昭和53年	医学部教授 附属病院薬剤部長
監 事	山 中 國 暉	昭和43年	山中薬局
庶務主任	中 嶋 弥穂子	昭和61年(院)	薬学部助手
会計主任	伊 藤 潔	昭和59年	薬学部助教授
編集主任	高 良 真 也	昭和57年	環境科学部教授

学年理事

大正～昭和11年	谷 口 順 一	昭和35年	木 下 敏 夫	昭和58年	宮 崎 幹 雄
昭和12年	松 尾 康 夫	昭和36年	武 田 成 子	昭和59年	中 村 忠 博
昭和13年	徳 久 利 治	昭和37年	青 木 昇	昭和60年	川 中 博 之
昭和14年	大 嶋 満 磨	昭和38年	戸 川 和 夫	昭和61年	谷 口 智 子
昭和15年	菊 谷 元 資	昭和39年	鈴 木 隆 治	昭和62年	森 川 隆
昭和16年 3 月		昭和40年	松 村 祐 子	昭和63年	神 山 朝 光
昭和16年12月	本 多 三代彦	昭和41年	平 山 文 俊	平成 1 年	松 下 文 子
昭和17年	牟 田 邦 彦	昭和42年	井 上 一 顕	平成 2 年	山 本 史 子
昭和18年	野 口 恭 一	昭和43年	井 富 永 志	平成 3 年	中 村 島 史
昭和19年	山 口 憲 治	昭和44年	中 村 永 義	平成 4 年	中 村 島 本
昭和20年	池 田 保 彦	昭和45年	大 西 裕 子	平成 5 年	
昭和22年	田 崎 和 之	昭和46年	松 本 逸 郎	平成 6 年	
昭和23年		昭和47年	上 川 恒 夫	平成 7 年	中 野 尾 有 里
昭和24年	麻 生 忠 介	昭和48年	馬 場 満 輝	平成 8 年	平 野 元 文
昭和25年	塚 崎 邦 彦	昭和49年	北 村 美 江	平成 9 年	平 楠 良 文
昭和26年	篠 田 英 夫	昭和50年	原 田 均	平成10年	今 田 朋 もも
昭和28年	吉 田 一 美	昭和51年	池 崎 隆 司	平成11年	山 内 朋 基
昭和29年	野見山 季 治	昭和52年	佐々木 均	平成12年	尾 上 知 弘
昭和30年	帆 士 辰 雄	昭和53年	濱 田 哲 也	平成13年	小 西 宏 規
昭和31年	今 泉 貴 世 志	昭和54年	大 田 佳 史	平成14年	坂 田 真 貴
昭和32年	長 田 雅 子	昭和55年	八 田 章	平成15年	永 川 貴 子
昭和33年	三 浦 博 史	昭和56年	高 良 真 也	平成16年	富 松 規
昭和34年	松 尾 幸 子	昭和57年		平成17年	

- 院 1～院 5 (昭和42年～昭和46年) 新垣 光雄 (昭和46年)
 院 6～院10 (昭和47年～昭和51年) 高橋 正克 (昭和49年)
 院11～院15 (昭和52年～昭和56年) 大木 豊 (昭和54年)
 院16～院20 (昭和57年～昭和61年) 中嶋 幹郎 (昭和59年)
 院21～院25 (昭和62年～平成 3 年) 塩田 英雄 (昭和62年)
 院26～院30 (平成 4 年～平成 8 年) 富田 守 (平成 4 年)
 院31～院35 (平成 9 年～平成13年) 原田 祐樹 (平成 9 年)
 院36～院40 (平成14年～平成17年) 大山 要 (平成14年)

長 薬 同 窓 会 支 部 一 覧

(平成17年11月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	伊 豫 屋 偉 夫	(昭 41)
長 崎 県 北 支 部	支 部 長	大 隈 直 之	(昭 23)
島 原 支 部	支 部 長	宮 崎 圭 介	(昭 31)
諫 早 支 部	支 部 長	赤 司 一 武	(昭 22)
佐 賀 支 部	支 部 長	江 頭 昇	(昭 23)
福岡支部浦陵会	会 長	青 木 郁	(昭 38)
北 九 州 支 部	支 部 長	末 宗 成 二	(昭 28)
大 分 支 部	支 部 長	藤 井 幹 久	(院昭44)
宮崎支部日向浦陵会	会 長	田 中 重 雄	(昭 45)
鹿 児 島 支 部	支 部 長	森 昭 雄	(昭 28)
熊 本 支 部	支 部 長	山 本 喜 一 郎	(院昭55)
山 口 支 部	支 部 長	河 野 信 助	(昭 17)
広 島 支 部	支 部 長	品 川 龍 太 郎	(昭 44)
岡 山 支 部	支 部 長	歳 森 三 千 代	(昭 49)
山 陰 支 部	支 部 長	橋 本 覚	(昭 52)
四 国 支 部	支 部 長	井 上 智 喜	(昭 54)
近 畿 支 部	支 部 長	白 石 哲 也	(昭 32)
東 海 支 部	支 部 長		
関 東 支 部	支 部 長	富 安 一 夫	(昭 34)
冲 縄 支 部	支 部 長	藤 本 勝 喜	(昭 31)
北 海 道 支 部	支 部 長		

同窓会事務局だより

時がたつのは早いものです。先日100周年記念の柏の木の下に新しい芽が出ていました。今年は115周年だと知っていて、記念に芽を出したんでしょうか。もっと早くからあったのに気がつかなかったのかもかもしれませんね。

事務局も大河内さんがご病気のため、私が後を引き継ぐことになりました。大先輩の後ということで不安だらけですが、同窓会の皆様のために少しでもお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

大河内さんも少しずつお元気になられているようです。

武次郁子 記

編集後記

同窓会報第45号をお届け致します。薬剤師教育の6年制には皆様関心が高いようで、今回の原稿中にも幾度となく「6年制」の文字が登場してまいります。同窓会のもうひとつの関心事は、個人情報保護法と同窓会の在り方ではないかと思えます。個人情報の保護と折り合いをつけながら、年代を超えて同窓生の距離を近付けるといった難題があります。何れにしても、たまの同窓会が非常に楽しいものであることは、皆様をご存知の事ですよ。

高良真也 記

平成17年12月19日印刷

平成17年12月21日発行

長 薬 同 窓 会 報

編 集 高 良 真 也

発 行 長 薬 同 窓 会

(郵便番号852-8131)

所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内

TEL095-844-6383 (直通)

095-819-2471 (ダイヤルイン)

FAX095-844-6383

(郵便番号850-0875)

印刷所 長崎市栄町6-23昭和堂ビル

(株)昭 和 堂

TEL 095-821-1234